

福井県 道路の将来ビジョン（案）

令和 3 年 月

福井県

目 次

第1章	はじめに	
1	背景と策定の趣旨	1
2	福井県の将来像	2
第2章	現状と課題	
1	福井県をとりまく状況	4
2	福井県の道路をとりまく状況	10
3	「道路の将来ビジョン（H16.1）」の成果	15
4	福井県の道路整備の課題	16
第3章	道づくりの基本方針	17
1	広域交流の拡大	18
2	産業・観光の活性化	20
3	幸福度日本一の生活基盤	24
4	県土強靱化と持続性	27
5	魅力ある道路空間の創出	32
第4章	道づくりの基本的な進め方	35
1	効率的、経済的な事業展開とストック効果の最大化	36
2	県民の参画と協働	37
3	情報化技術の活用	38
参考資料		
	福井の道づくり懇話会	39
	福井県の道路についてのアンケート結果	41

第1章 はじめに

1 背景と策定の趣旨

福井県では、平成16年1月に策定した「道路の将来ビジョン」に基づき、着実に道路整備を進めてきました。この間、舞鶴若狭自動車道の全線開通や中部縦貫自動車道永平寺大野道路の開通など高規格幹線道路の整備進捗、橋梁など道路施設の老朽化の進展など、道路をとりまく状況が大きく変化しており、中長期的な道路整備のあり方を見直す時期に来ています。

また、令和2年7月には「福井県長期ビジョン」が策定され、2040年を目標年次として、人口減少・超高齢化社会への突入や経済のグローバル化が進む中、北陸新幹線など高速交通体系の完成を最大限に活かし、福井県がさらに発展していくための将来像が提示されています。

このような状況を踏まえ、「福井県長期ビジョン」に示された将来像の実現に向けて、目標年次を2040年とし、中長期的な道路整備の基本方針や道づくりの進め方を示す「福井県 道路の将来ビジョン」を策定しました。

2 福井県の将来像

福井県では、今後想定される社会環境の変化に対応し、県民の皆さんと将来像を共有して福井県のさらなる発展に向けて行動していくため、令和2年7月に「福井県長期ビジョン」を策定しました。

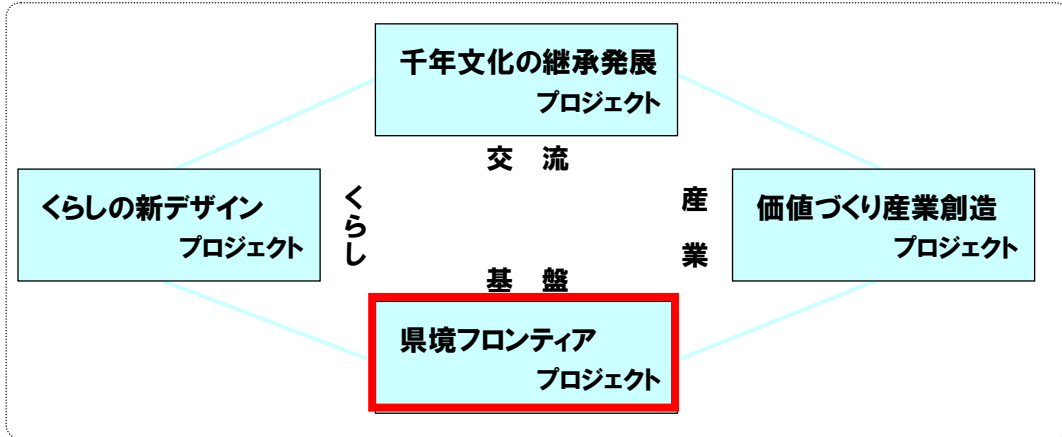
この「福井県長期ビジョン」では、長い歴史の中で先人たちが培ってきた「安心と信頼」の福井を、みんなで守り、次世代に引き継ぎ、さらに、その安定した社会基盤をもとに、誰もが夢や希望をもって自分らしくチャレンジでき、相互に応援し合う、もっとワクワク・ドキドキする「おもしろい！」福井を目指すこととしており、基本理念として『「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！』が掲げられています。



そして、〔2040年に福井県が目指す姿〕として、『自信と誇りのふくい』『誰もが主役のふくい』『飛躍するふくい』が掲げられています。特に『飛躍するふくい』においては、交通体系の進展や技術革新を活かして、産業の新たな可能性を拓く、創造的で活力ある“ふくい”を目指し、交流拡大や新技術により、経済・社会の仕組みが大きく変わる可能性があり、こうしたチャンスを最大限に活かし、新時代の産業基盤を確固たるものにするとともに、くらしの質を高め、活力に満ちた地域をつくることとしています。

さらに、〔2040年に向けた長期プロジェクト〕として、『県境フロンティア』『千年文化の継承』『くらしの新デザイン』『価値づくりの産業創造』が掲げられています。『県境フロンティア』においては、東西南北に開く高速交通・物流ネットワークの整備を加速し、新時代の交流・くらし・産業の基盤づくりや歴史・文化やオンリーワンの魅力に磨きをかけ、「交流」と「楽しさ」を大きく広げる取組、安全で安心して暮らせる住みやすい地域づくり、最新技術を有する企業の誘致など、新たな価値を生み出す産業づくりを推進することとしています。

〔2040年に向けた長期プロジェクト〕



〔2040年の高速交通インフラ〕

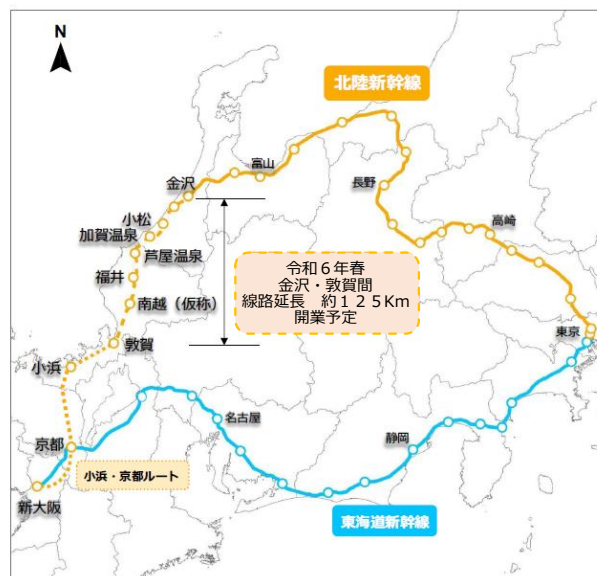


第2章 現状と課題

1 福井県をとりまく状況

(1) 北陸新幹線の福井・敦賀開業と大阪までの延伸

北陸新幹線の福井・敦賀開業により首都圏と直結し、さらに大阪までの延伸により東海道新幹線とともに大環状広域ルートが形成され、さらなる交流拡大が期待されています。

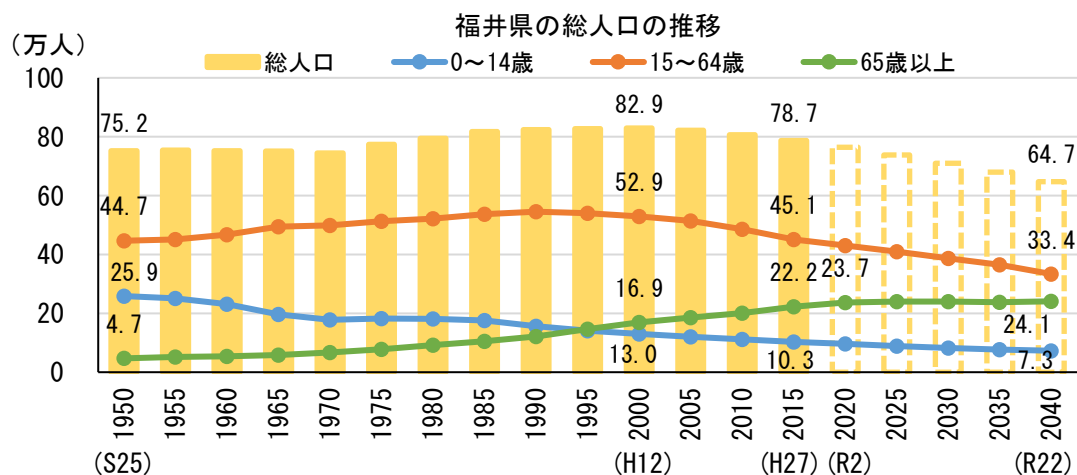


北陸新幹線（福井・大阪間）ルート図

〔出典：北陸新幹線 金沢・敦賀間 駅舎パンフレット（平成31年4月）、小浜市HPより作成〕

(2) 人口減少・少子高齢化

福井県の人口は、平成12年（2000年）の82.9万人をピークに減少に転じており、令和22年（2040年）には64.7万人まで減少すると推計されています。年齢区分別では老年人口（65歳以上）が令和2年（2020年）に23.7万人に達した後、令和22年に24.1万人とほぼ横ばいで推移する一方、年少人口（0～14歳）はほぼ一貫して減少し、生産年齢人口（15～64歳）も減少傾向が続くことが予測されています。それにより、令和22年には本県の人口の約5人に2人（37%）が65歳以上の高齢者になると予測されています。



〔出典：（平成27年まで）総務省「国勢調査」、（令和2年以降）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」〕

(3) 頻発する大規模災害

近年の地球温暖化の影響で全国的に豪雨災害が頻発しており、本県においても平成16年7月の福井豪雨では、県内各所で浸水等の被害が発生し、特に足羽川においては、福井市街地の堤防が決壊して甚大な被害を受けました。また、平成30年7月の豪雨では法面崩壊により国道305号が通行止めとなり、多くの住民に影響が出ました。

また、年間積雪量は減少傾向にありますが、短期集中的な大雪が発生しており、平成30年2月や令和3年1月の大雪では、嶺北地域の北陸道と国道8号において、大規模な渋滞・滞留が発生するなど、県民生活に大きな影響を与えました。

平成16年7月 福井豪雨



一乗谷川 被災状況



一乗谷川 被災状況

平成30年7月 豪雨



国道305号 法面崩壊(福井市居倉町)



国道365号 法面崩壊(越前町下河原)

平成30年2月 大雪



国道8号の滞留状況
(あわら市笹岡)

令和3年1月 大雪



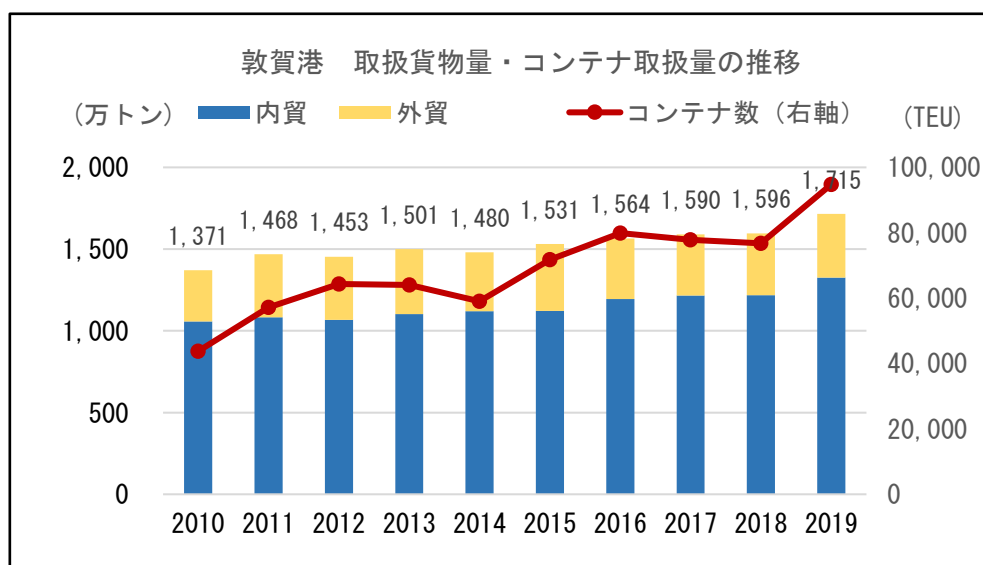
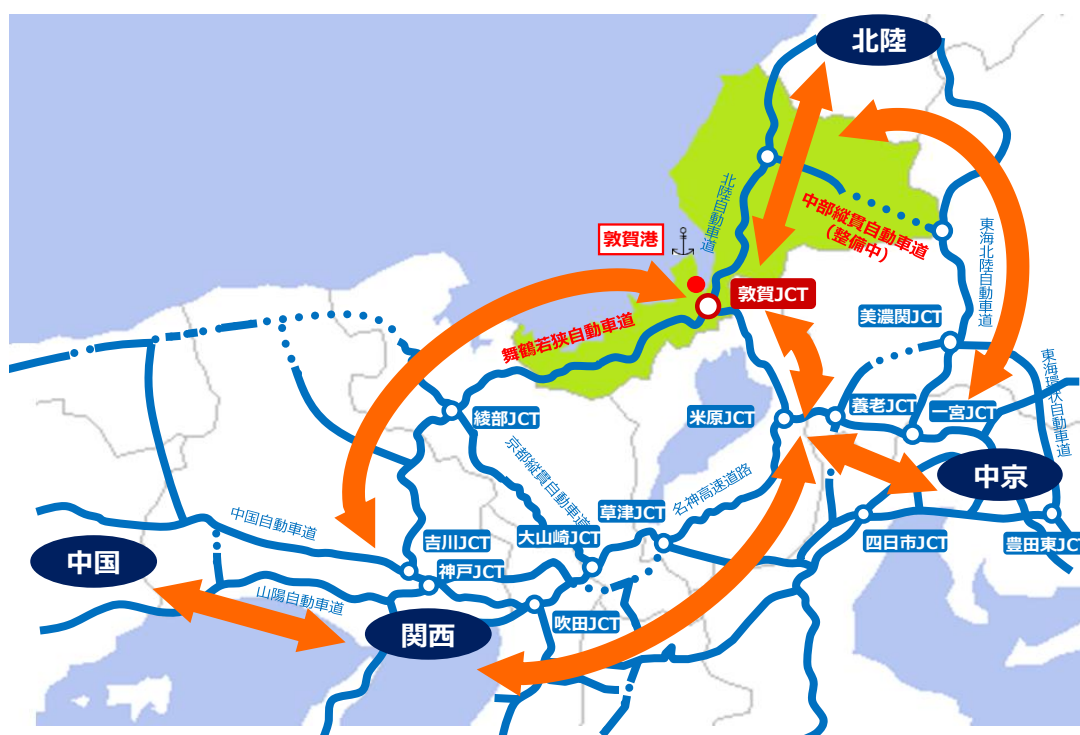
国道8号の渋滞状況
(坂井市丸岡町一本田)

(4) 県内港湾の状況

重要港湾としての敦賀港は、日本海側で唯一、北海道と九州の両方に航路を持っており、近年、貨物の取扱量が増加傾向にあります。また、舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道により、敦賀港と関西圏・中京圏が複数の輸送ルートで結ばれるため、大規模災害時においては、太平洋側の代替輸送港湾に位置付けられています。

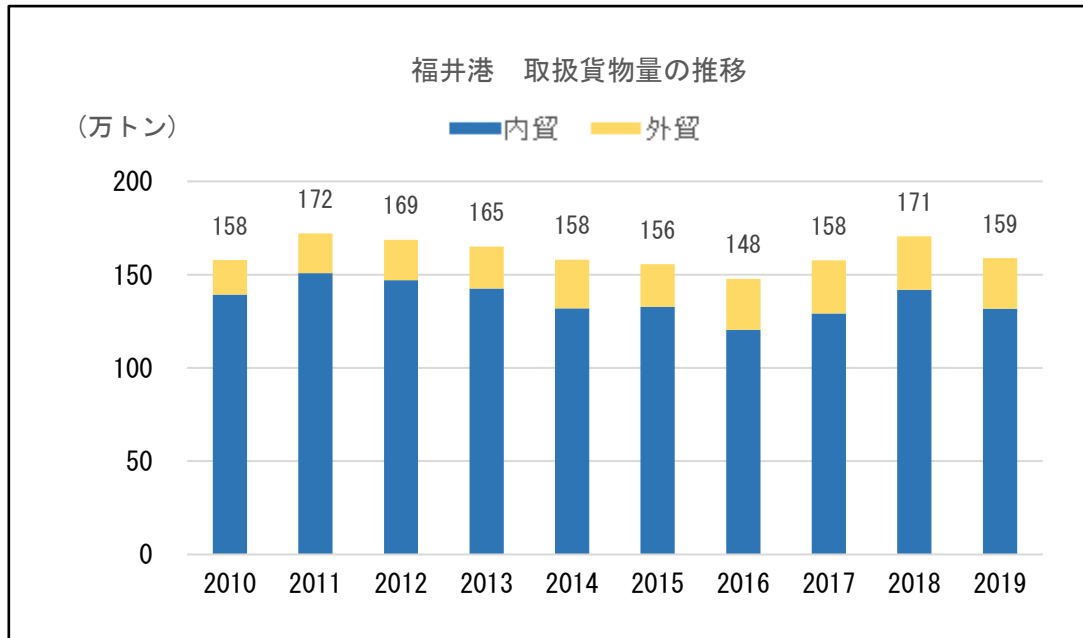
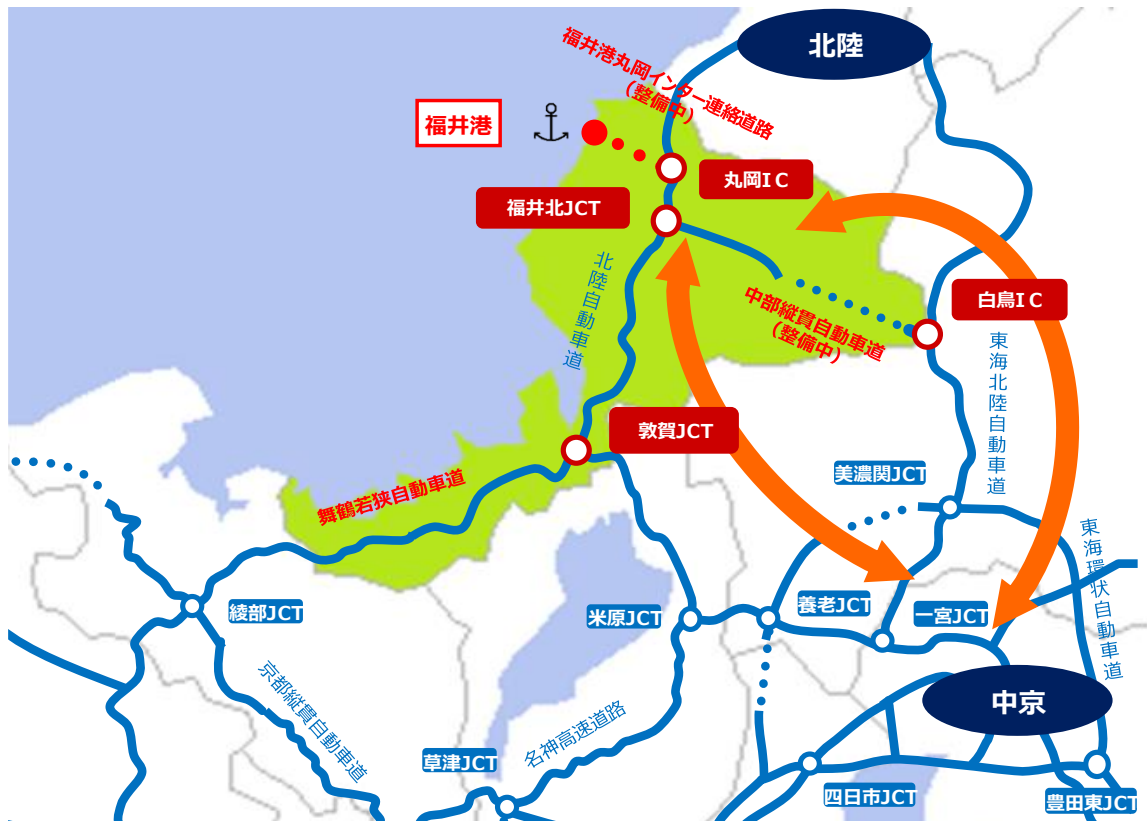
地方港湾としての福井港は、テクノポート福井に隣接し、広大なふ頭用地を活かして地域産業を担う工業港として、敦賀港とともに中京圏からの利用に最適な日本海側港湾となっています。

敦賀港につながる広域道路網



[出典：敦賀港港湾統計年報より]

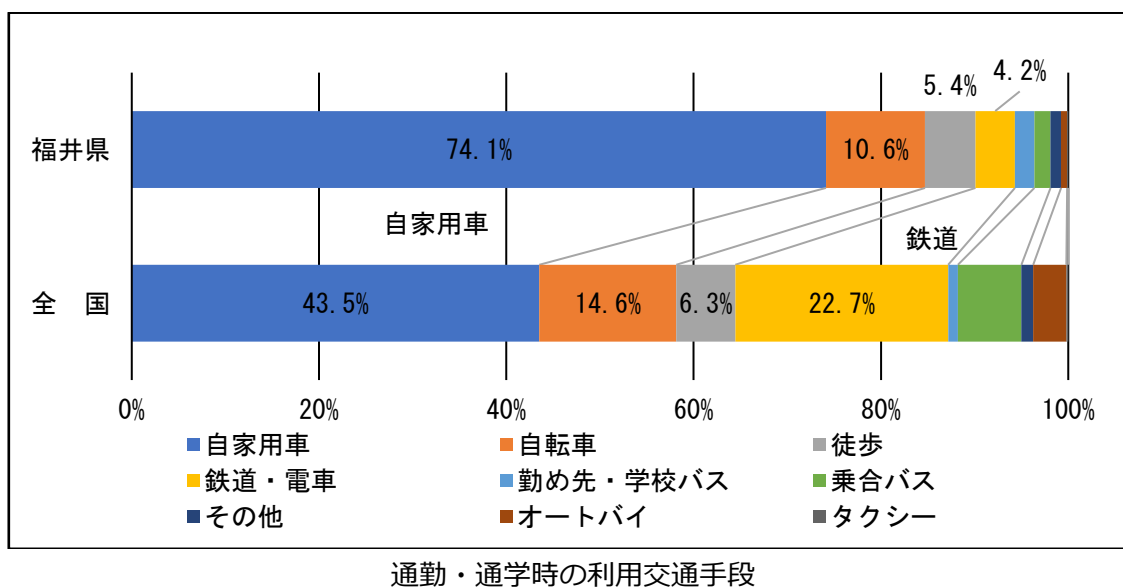
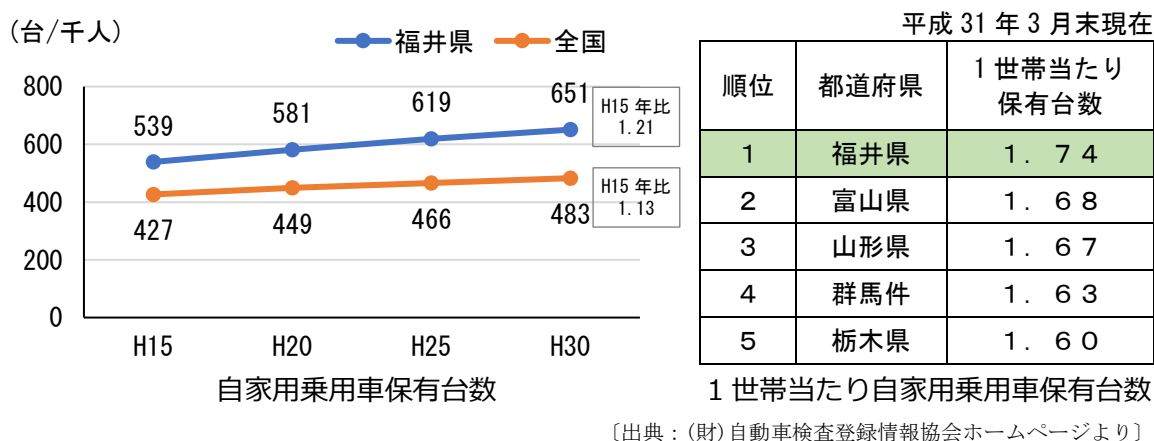
福井港につながる広域道路網



[出典：福井港湾統計年報より]

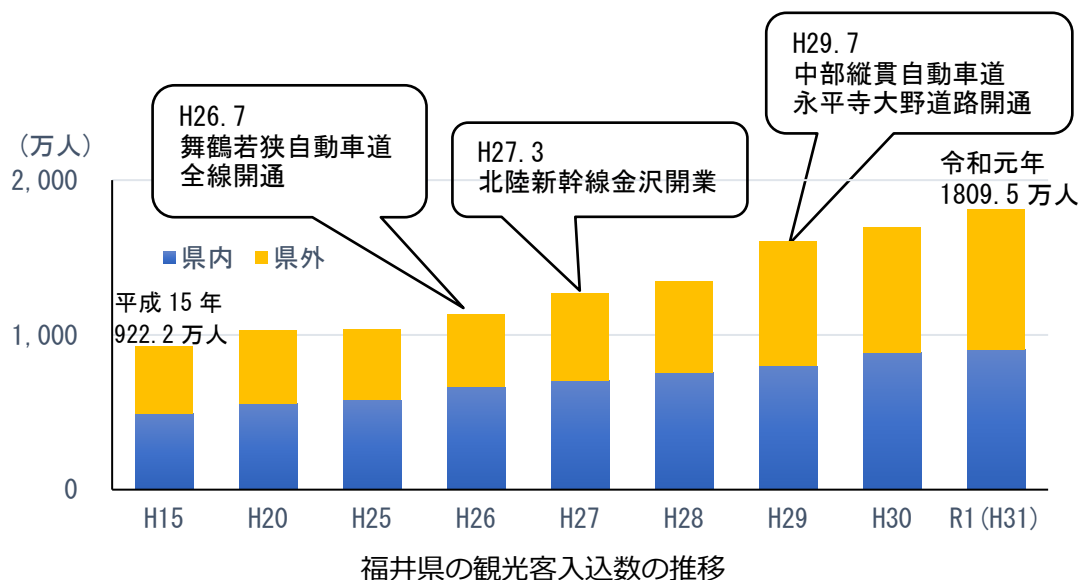
(5) 車中心の社会

全国的に自家用乗用車保有台数は年々増加しており、千人あたりの台数は全国が平成 15 年比 1.13 に対し、福井県は 1.21 と伸び率が高くなっています。また、福井県は 1 世帯当たりの自家用車保有台数が 1.74 台と全国 1 位となっており、通勤・通学時の利用交通手段は自家用車が 74.1%を占めるなど、車中心の社会となっています。



(6) 主要観光地の観光客入込数

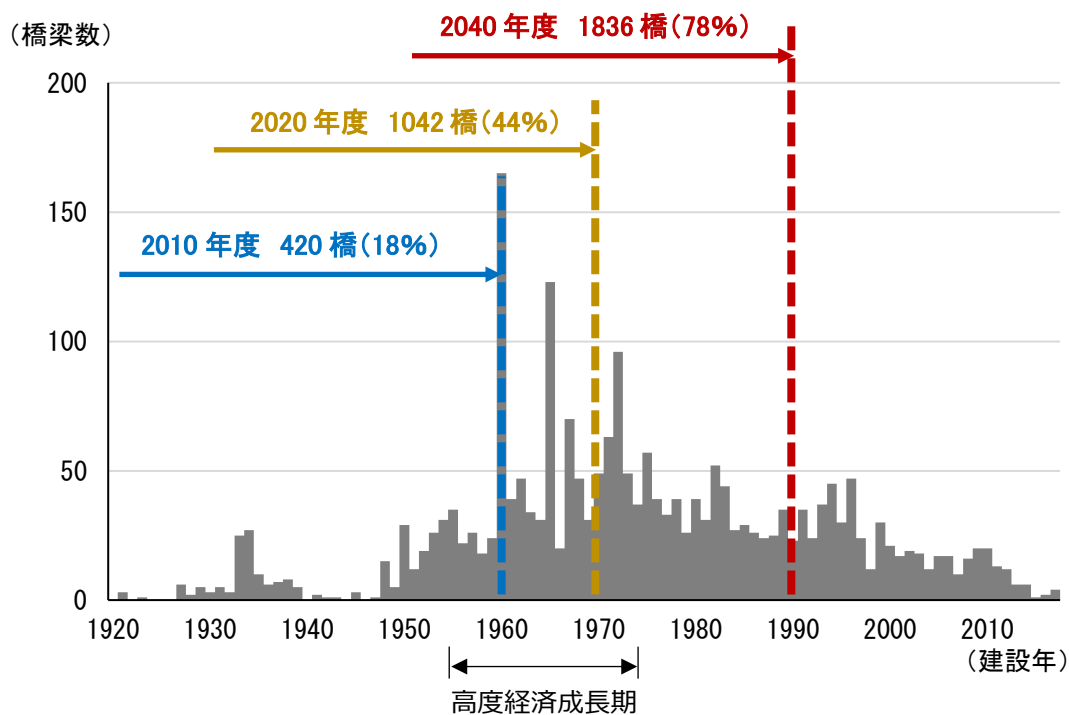
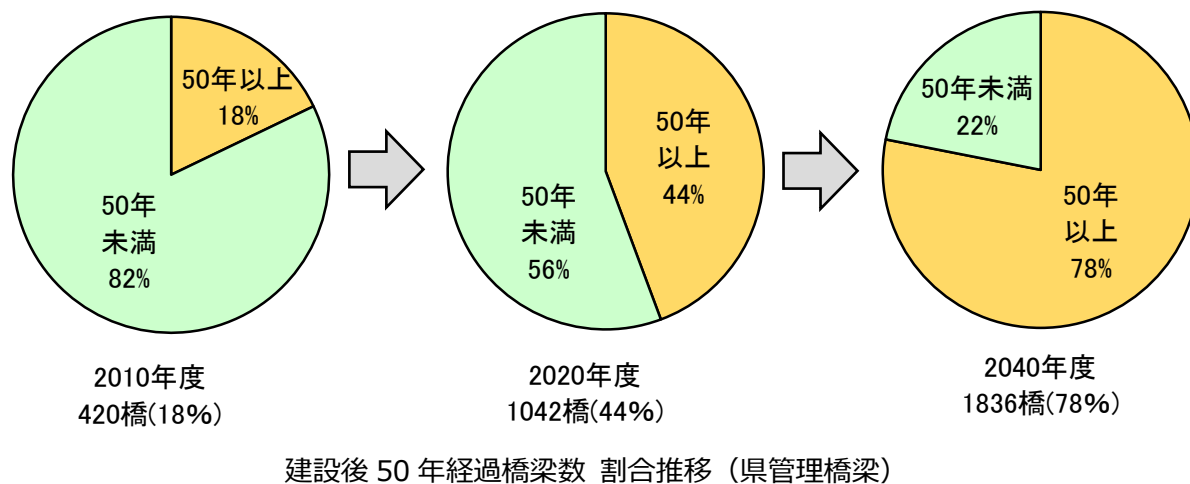
福井県の観光客入込数は、舞鶴若狭自動車道全線開通（平成 26 年 7 月）、北陸新幹線金沢開業（平成 27 年 3 月）の効果により大幅に増加し、令和元年には 1,800 万人を超え、年間 100 万人を超える観光地が県内に点在しています。北陸新幹線福井・敦賀開業や中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通時には、さらなる観光客増加が見込まれています。



主要観光地の入込数 [出典：福井県観光客入込数（令和元年）]

(2) 道路施設の老朽化

県内の多くの橋梁は高度経済成長期以降に建設され、老朽化（建設後50年経過）が進んでいます。現在、県管理橋梁の約4割が老朽化しており、令和22年（2040年）頃には、約8割の橋梁が老朽化橋梁となります。



建設年度別橋梁数 (県管理橋梁)

(3) 道路改良率・道路整備率

福井県では、地域の実情を考慮しながら、路線の重要度や費用対効果などを踏まえ道路整備を進めてきましたが、道路改良率^{※1}は全国平均と比較して低く、北陸3県の中でも下位の31位となっています。一方で、道路整備率^{※2}は全国平均よりも高く、15位となっています。

道路改良率（5.5m以上の国道・県道）

	順位	都道府県	改良率(%)
上位	1	北海道	95.3
	2	沖縄県	93.0
	3	埼玉県	88.1
北陸3県	12	富山県	82.4
	19	石川県	79.2
	31	福井県	72.3
全国平均			77.2

道路整備率（交通量混雑度1.0以下の国道・県道）

	順位	都道府県	整備率(%)
上位	1	北海道	92.7
	2	岩手県	77.0
	3	鳥取県	76.5
北陸3県	6	富山県	73.3
	13	石川県	67.4
	15	福井県	65.8
全国平均			64.1

[出典：道路統計年報2019（平成30年4月1日現在）]

(4) 歩道の整備状況

福井県では、重点的に通学路の歩道整備を進めています。歩道の設置率^{※3}を見ると全国平均を下回っており、北陸3県の中でも下位の44位となっています。

歩道設置率（国道・県道道路）

	順位	都道府県	設置率(%)
上位	1	沖縄県	78.9
	2	埼玉県	72.6
	3	東京都	71.6
北陸3県	17	石川県	47.7
	20	富山県	47.0
	44	福井県	33.3
全国平均			46.2

[出典：道路統計年報2019（平成30年4月1日現在）]

※1 国道・県道において、普通自動車がすれ違える(幅員5.5m以上)の道路の割合

$$\text{道路改良率} = \text{改良済延長} / \text{道路実延長}(\%)$$

※2 道路の改良率と混雑度を総合評価するもので、自動車のすれ違い走行が可能で交通量混雑度が1.0以下の道路の道路全体(実延長)に占める割合

※3 国道・県道において、歩道が設置されている道路の割合

$$\text{歩道設置率} = \text{歩道設置延長}^* / \text{道路実延長}(\%) \quad (* \text{道路中心線上の延長})$$

(5) 県民との協働

平成19年度から県民と「共働」で県管理道路の維持管理の一部を行う道守活動を推進しています。地域住民や沿道の事業者等とともに歩道や植樹柵の清掃や花壇の手入れなど、道路の維持や美化に努めています。（令和元年度 道守活動団体数：92団体）

➤ 花壇の手入れ状況



国道158号（福井市美山町）



一般県道 日向郷市線（美浜町久々子）

(6) 「福井県の道路についてのアンケート」の概要

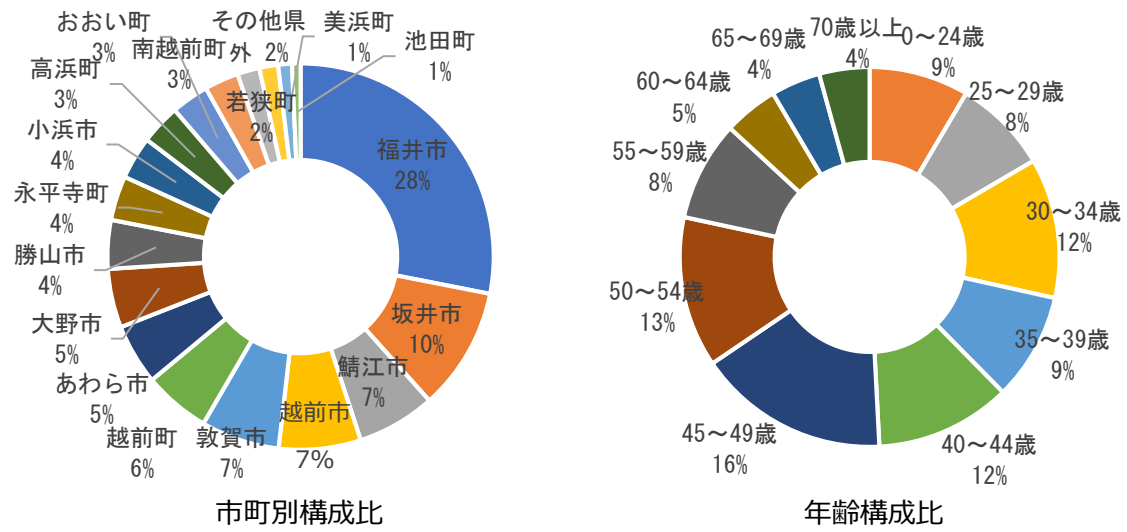
今回の「道路の将来ビジョン」の策定にあたり、県民のニーズや地域の特性・要望等を把握するため「福井県の道路についてのアンケート」を行いました。福井県内17市町の幅広い年代の住民から回答をいただきました。（詳細な結果は巻末【参考資料2】を参照）

全般的に道路整備に対するニーズが高い結果となっています。

・実施概要

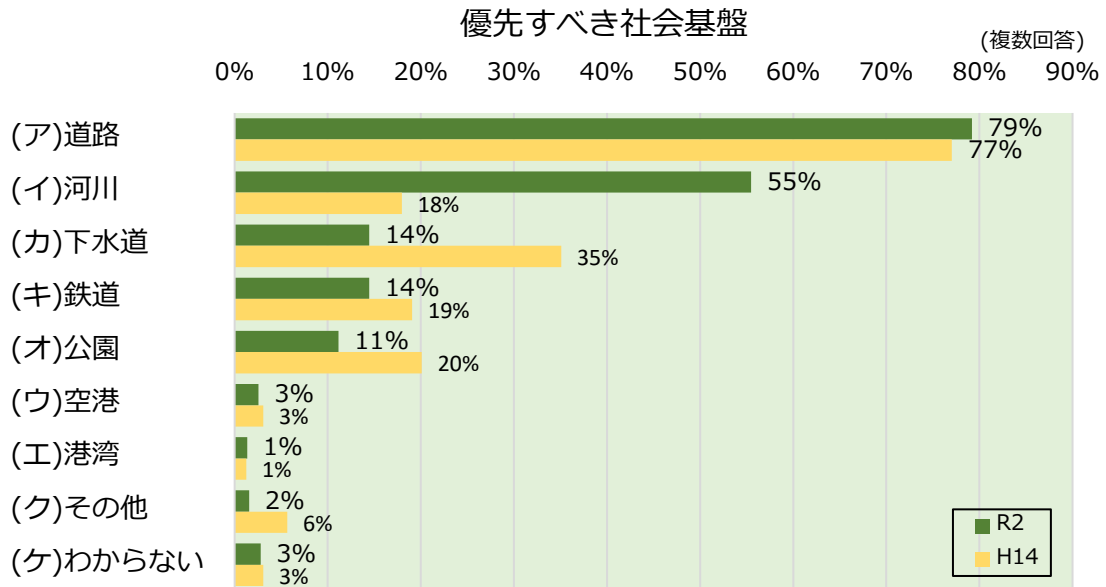
調査目的	道路に関する県民の意識を把握し、今後の施策の参考とする
調査項目	・道路に関する意識について ・今後の道路整備について
調査時期	令和2年7月1日～31日
調査方法	・市町役場(支所)、土木事務所、道の駅にて アンケート用紙の配布(3,000枚)、回収 ・福井県道路建設課 HP 上インターネット回答
回収数	・アンケート用紙 : 919人 ・インターネット回答 : 480人 合計 : 1,399人

・回答者概要



・県民の道路に対する意識

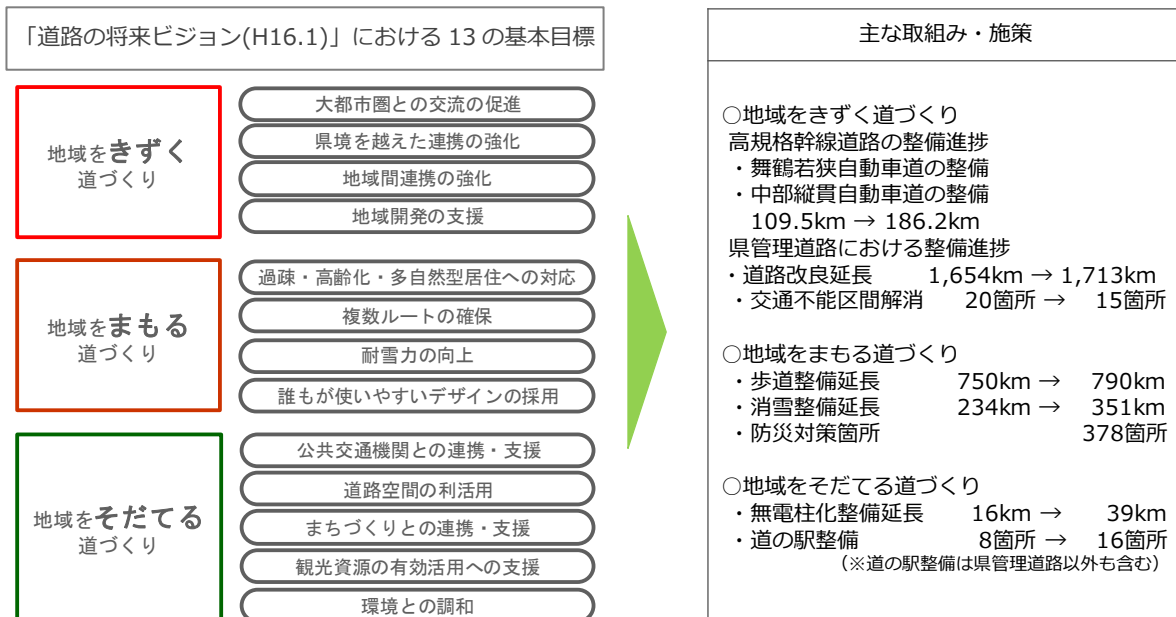
優先すべき社会基盤に関する質問において、平成 14 年のアンケート結果と同様に、「道路」が最も高くなっています。



3 「道路の将来ビジョン（H16.1）」の成果

「道路の将来ビジョン（H16.1）」を策定した平成15年度から令和元年度までの16年間に於いて、舞鶴若狭自動車道や中部縦貫自動車道永平寺大野道路の全線開通により、県内主要都市が高規格幹線道路で結ばれたことをはじめ、県内幹線道路も、国道8号 福井バイパスが全線開通、国道158号 奈良瀬〜境寺バイパス、国道162号阿納尻〜田烏バイパスが完成するなど、着実に整備を進めてきました。

また、消雪設備は117kmを整備し、防災対策箇所は378箇所を実施してきました。



【主な整備箇所】



一般県道 勝山インター線 (H28年)



道の駅「若狭おばま」(H23年)

4 福井県の道路整備の課題

(1) 福井県を開く広域道路ネットワークの整備

○中部縦貫自動車道のミッシングリンクの解消

福井県と中京圏や関東圏との間を最短で結ぶ中部縦貫自動車道については、県内では大野・油坂間がミッシングリンクとなっています。大野 IC から和泉 IC までは令和 4 年度の開通が予定されており、残る和泉 IC から油坂出入口間についても早期の全線開通に向け、整備が進められており、早期のミッシングリンクの解消が必要となっています。

○舞鶴若狭自動車道の暫定 2 車線の解消

日本海側の国土軸を形成する舞鶴若狭自動車道については、平成 26 年 7 月に全線開通しましたが、一部区間を除き大部分が暫定 2 車線での対面通行となっており、度々、事故等により全面通行止めとなっています。令和元年度に国が策定した「高速道路における安全・安心基本計画」により、現在、県内の約 16 km の区間で 4 車線化が進められていますが、平時・災害時の安定的な物流・人流を確保するため、早期の全線 4 車線化が必要となっています。

(2) 身近な生活道路における交通安全の確保

歩道設置率が全国平均より低い状況にあり、歩道の設置や段差の解消とともに、身近な生活道路における歩行空間を明示するためのカラー舗装や防護柵の設置など、子どもや高齢者も含めた歩行者の安全を確保する取組が必要となっています。

(3) 気候変動に対応した防災対策・環境と共生するみちづくりの推進

地球温暖化等の気候変動に伴い、大規模な災害が頻発しています。災害に備え支援物資等の輸送ルートを確保するため、ダブルネットワーク化や、緊急輸送道路等の重要な路線の防災対策が必要となっています。

また、地球温暖化の要因の一つである温室効果ガスの排出抑制に向け、自家用車による移動から公共交通機関を利用した移動への転換や近場の徒歩・自転車による移動の推進、電気自動車等の次世代自動車の普及を推進するための基盤整備や照明等の LED 化等の低炭素化が必要となっています。

(4) 道路施設の老朽化対策

平成 26 年度から 5 年に 1 度の点検が義務付けられ、点検を行いながら、早期に補修が必要な箇所の対策を進めています。1 巡目の点検が完了した平成 30 年度末時点で早期に修繕が必要なⅢ判定^{※4}の県管理橋梁は全体の約 1 割の 259 橋あり、限られた予算の中で、既存施設を最大限に活かし、予防保全^{※5}の補修による道路施設の長寿命化を図っていく必要があります。

(5) 多様な主体による道づくり

道路に求められるニーズが多様化しており、県民や民間事業者と連携し、一体となった道づくりを進めていく必要があります。

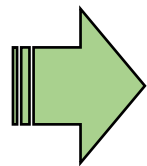
また、イベント等の空間を活用した賑わいづくりや、花植え、みどりのスコップひとかき運動等、地域住民と一緒に使って、使い、守っていく中で愛着のある道に育てていく取組を進める必要があります。

※4 事後保全段階（健全度の定義 I 判定：健全、II 判定：予防保全段階、IV 判定：緊急措置段階）

※5 施設の機能や性能に不具合が発生する前に修繕等の対策を講じること

5つの基本方針と12の基本目標

課題解決
のための
基本方針

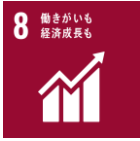


<SDGsへの取組>

2015年の国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現を目指し、国際社会が協調して取り組む世界共通の目標です。

道路の将来ビジョンにおいても、SDGsの理念に沿いながら、未来につながる道づくりを進めます。

1 広域交流の拡大 ～広くつながる道づくり～



福井県は、日本海側の中央に位置し、太平洋側にも近接している地理的優位性があります。アジア大陸に面し日本海側の玄関口となっている敦賀港・福井港を物流拠点とし、大都市圏とのネットワークを強化して、物流・交流の拡大に繋がります。

(1) 国土軸を形成し、県土の骨格となる広域ネットワークの構築

日本海国土軸を形成し三大都市圏をはじめとする広域圏を結ぶ、高速性、信頼性、安定性の面で優れている高規格幹線道路の整備を推進します。

ミッシングリンク^{※6}となっている中部縦貫自動車道の大野 I C～油坂出入口間の早期開通、暫定 2 車線となっている舞鶴若狭自動車道等の全線 4 車線化の整備を推進します。

また、高規格幹線道路と一体となって広域ネットワークを形成する道路を整備し、敦賀港・福井港等の物流拠点へのアクセスを向上させます。

➤ 中部縦貫自動車道の整備



大野市下山地区の整備状況

➤ 高規格幹線道路の 4 車線化



暫定 2 車線舞鶴若狭自動車道の 4 車線化

➤ 広域ネットワークを形成する道路整備



		福井川 (4車線以上)	福井川 (2車線)	若狭川	ひよこ
災害に強い 国土幹線道路ネットワーク	有陸地帯	■■■■	■■■■	■■■■	○○○○
	代替圏域にある 幹線道路	■■■■	■■■■	■■■■	○○○○
その他既設道路		■■■■	■■■■	■■■■	○○○○

(出典 社会資本整備審議会道路分科会 近畿地方小委員会(第 29 回)より)

※6 未整備により途中で途切れている区間のこと

(2) 東西南北に開き、交流を拡大するネットワークの強化

県土を東西南北に開き県境をまたぐ道路の整備を促進し、隣接府県との幅広い交流・連携の活性化を図ります。

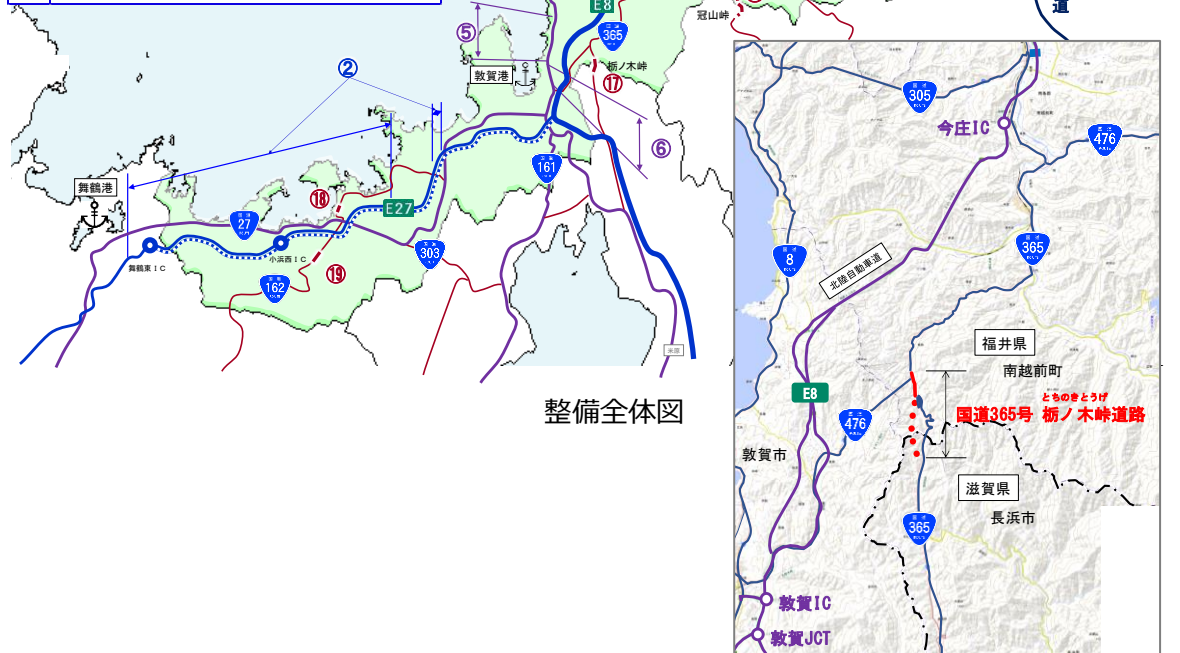
広域交通を担う国道8号、国道27号、国道161号の直轄国道をはじめ、広域幹線道路を補完・代替する国道303号、国道365号、国道417号など物流・人流の活性化に寄与する幹線道路の整備を進めます。

➤ 主要幹線道路の整備

No.	路線名
①	中部縦貫自動車道 大野油坂道路
②	舞鶴若狭自動車道 (4車線化)
③	国道8号 (牛ノ谷道路・金津道路) 加賀市熊坂町～あわら市笹岡
④	国道8号 (福井バイパス 4車線化) あわら市笹岡～坂井市丸岡町玄女
⑤	国道8号 (敦賀防災) 敦賀市拳野～敦賀市田結
⑥	国道8号 (敦賀バイパス 4車線化) 敦賀市田結～敦賀市河原町
⑦	福井港丸岡インター連絡道路
⑧	国道416号 (白方～布施田バイパス)
⑨	国道416号 (福井北ICアクセス道路)
⑩	国道158号 (境寺～計石バイパス)
⑪	国道365号 (梅浦バイパス)
⑫	国道365号 (4車線化：上太田町～岡本町)
⑬	国道305号 (白浜拡幅)
⑭	国道476号 (白粟バイパス)
⑮	国道417号 (板垣坂バイパス)
⑯	国道417号 (冠山峠道路) 権限代行
⑰	国道365号 (栃ノ木峠道路)
⑱	国道162号 (西津橋・大手橋・城内橋)
⑲	国道162号 (深谷～相生)

<凡例>

- 高規格幹線道路 ■
- 直轄国道 ■
- 地域高規格道路 ■
- 県管理国道 ■



整備全体図

⑰ 国道365号 (栃ノ木峠道路)

2 産業・観光の活性化 ～ふくいをみかく道づくり～



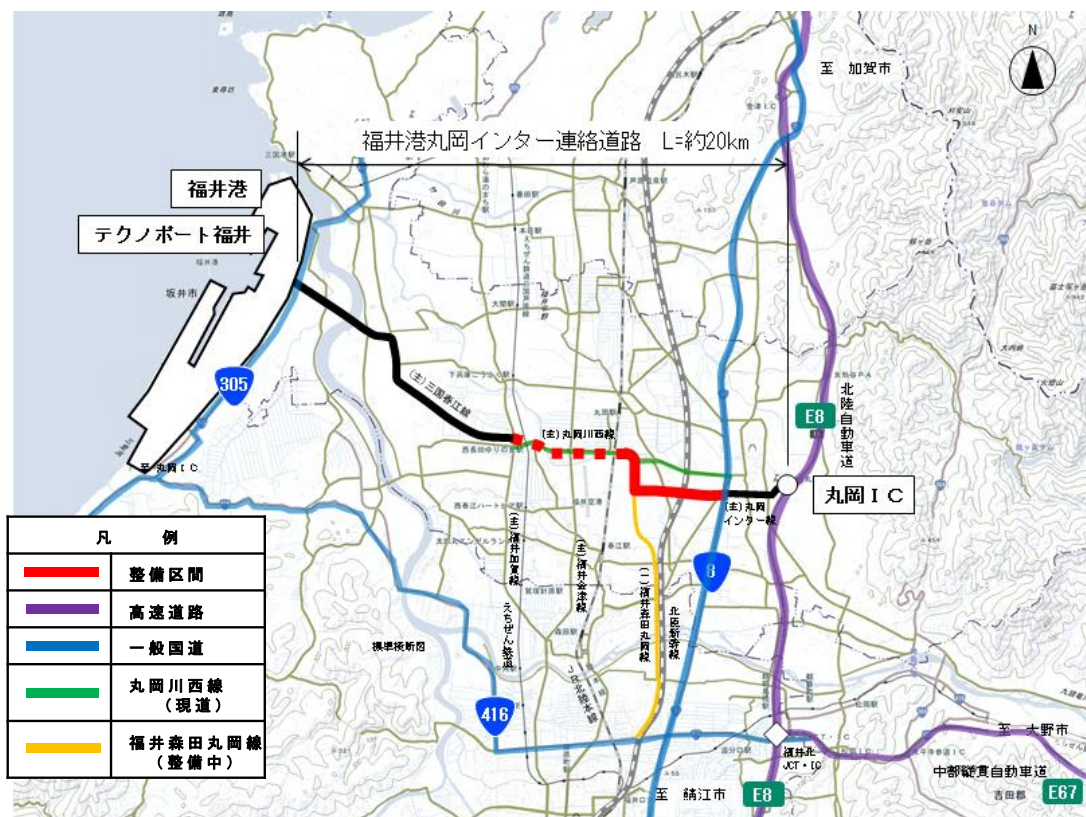
北陸新幹線の福井・敦賀開業や大阪までの延伸、中部縦貫自動車道の全線開通など、大交流化を推し進めるチャンスを迎え、市場開拓・販路拡大など産業経済の活性化や県内外からの観光誘客など観光振興につながる道づくりを推進します。

(1) 産業経済活動の支援

福井港やテクノポート福井等の産業拠点と北陸自動車道をつなぐ福井港丸岡インター連絡道路をはじめ、産業経済活動の支援や企業立地の促進、立地企業の規模拡大につながる道路の整備を進めます。

また、右折レーンの設置や4車線化によるボトルネック^{※7}の解消など交通の円滑化を図り、市街地の幹線道路の渋滞を緩和する道路の整備を進めます。

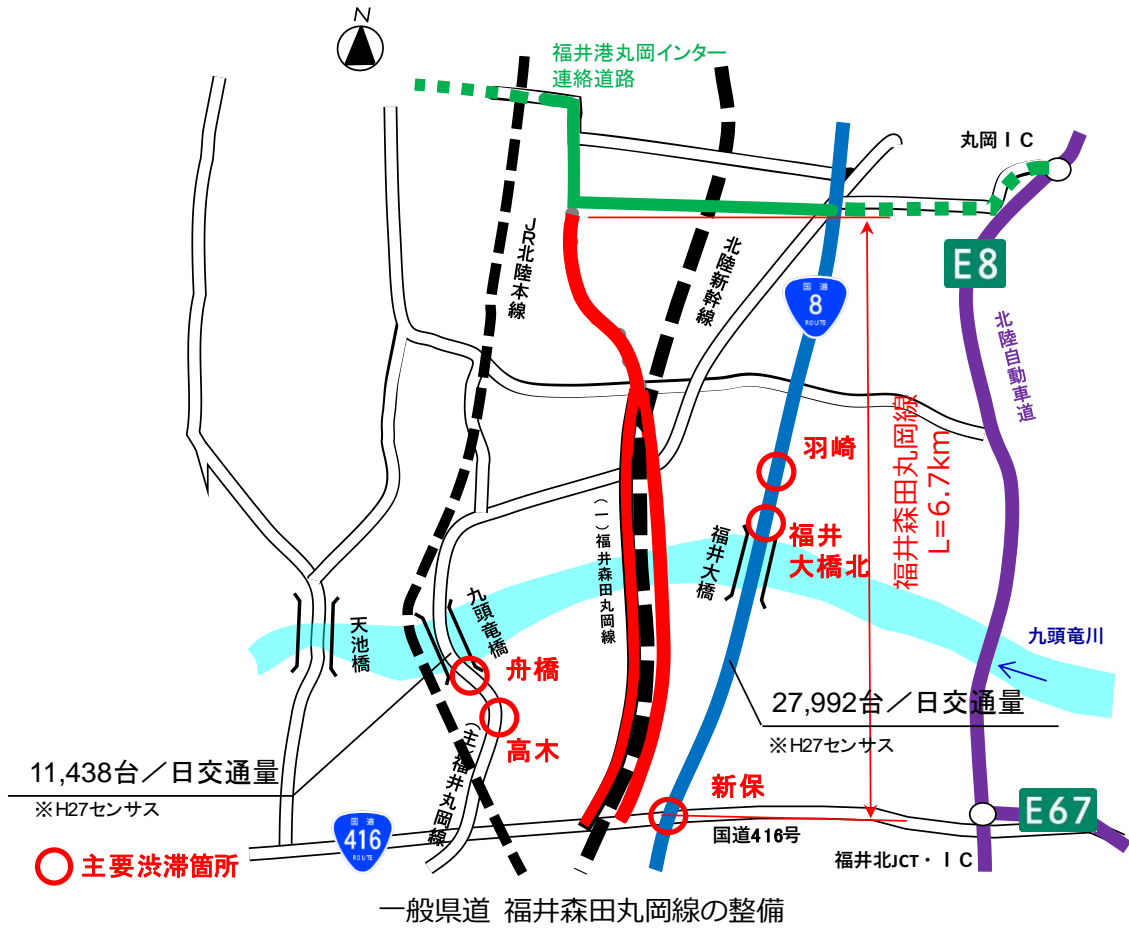
➤ 産業道路の整備



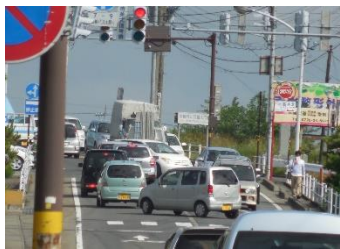
福井港丸岡インター連絡道路 概要

※7 道路の幅が急に細くなったり、信号や踏切などにより車の流れが阻害される箇所

➤ 渋滞箇所の対策事業



一般県道 福井森田丸岡線の整備



舟橋 (北進方向)



羽崎 (北進方向)



羽崎 (南進方向)



高木 (南進方向)



新保 (北進方向)



新保 (南進方向)



福井大橋北 (南進方向)

(2) 周遊・滞在型観光の促進

観光地等を結ぶ道路や広域周遊観光ルートを形成する道路など観光の活性化を促進する道路を整備します。観光地への道路標識や観光案内標識を設置し、はじめて訪れた人にもわかりやすい観光アクセスを確保します。

また、観光拠点となる道の駅の整備やサイクリングコースのネットワーク化を進めるとともに、観光地の魅力を高めるため地域全体で景観創造や美観向上の取組を進めます。

➤ 広域周遊観光ルート道路整備



冠山峠道路の整備状況(岐阜県側)

➤ 観光地へのわかりやすい案内標識



主要観光地を案内標識に表示

➤ 地域全体の景観創造・美観向上



熊川宿（若狭町熊川）

➤ 道の駅、SA・PA等の施設の充実化やサービスの向上



道の駅「恐竜渓谷かつやま」



道の駅「越前おおの 荒島の郷」

➤ サイクリングコースのネットワーク化

ネットワーク化されたサイクリングコース
約282km整備完了（H30末）

【凡例】

- 自転車専用道
- サイクリングコース
- 道の駅
- 主要観光地



ルート上の分岐点などに路面表示や標識を設置

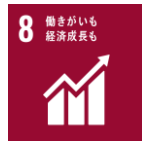


三方五湖サイクリングコース



北潟湖畔自転車道（ハミングロード）

3 幸福度日本一の生活基盤 ～ふくいの暮らしを支える道づくり～



人口減少・高齢化が進む中、地域でいつまでも安心して暮らすことができるよう、基盤となる道路の整備を推進します。通勤・通学、買い物等の日常生活が快適となる道路ネットワークの充実を図るとともに、生活空間における道路の安全、安心を確保し、住みやすい環境基盤を整備します。また、自動車に頼らず誰もが容易に移動できるよう、鉄道やバスなどの公共交通機関との連携を強化し、交通の基盤づくりを推進します。

(1) 快適な生活をサポート

通勤・通学、買い物などに利用され、地域間の交流・連携を強化する幹線道路を整備し、道路ネットワークの充実を図ります。

市街地内における短距離の移動に自転車を利用できるよう、自転車走行空間のネットワーク化を進めます。

冬期における安全で円滑な交通を確保するため、除雪体制を充実するとともに、家屋が密集している区間や急な坂道等の必要な箇所において、消雪施設を整備し、雪に強い道づくりを進めます。

➤ 自転車で通勤・通学できる道路整備



自転車専用通行帯（大野市日吉町）

➤ 消雪設備の整備

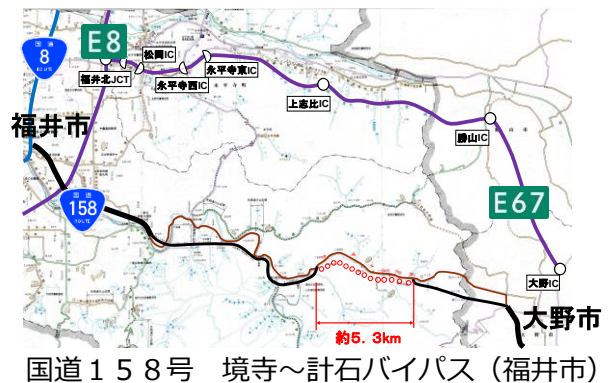


主要地方道 福井大森河野線（越前市白山）

➤ 地域間を結ぶ道路の整備



主要地方道 坂本高浜線
（おおい町石山）



国道158号 境寺～計石バイパス（福井市）

(2) 誰もが安全・安心

安全・安心に暮らせる環境・基盤づくりのため、歩道整備や段差の解消を進めるとともに、身近な生活道路において、歩行空間を明示するためのカラー舗装や防護柵の設置などを行います。

また、学生や高齢者、歩行者や自転車など、誰もが使いやすいデザインの道路空間の整備や、無電柱化等による歩行スペースの拡充など、快適な通行空間を確保します。

➤ 踏切道の拡幅による歩道整備



整備前



整備後

一般県道 西尾鯖江停車場線（鯖江市舟津町1丁目）

➤ 通学路の交通安全対策



整備前



整備後

一般県道 敦賀美浜線（敦賀市金山）

➤ カラー舗装による歩行空間の明示



国道162号（小浜市駅前町）

➤ 無電柱化による通行空間の確保



フェニックス通り（福井市春山1丁目）

(3) 公共交通機関との連携強化

公共交通機関の利便性を高めるため、鉄道駅や道の駅を拠点とした公共交通ネットワークを強化します。自動車に頼らずに地域住民や観光客が目的地まで移動できるよう二次交通^{※8}との連携を強化し、新幹線駅や地域の核となる駅から観光地や地域拠点等への利便性の高いアクセスを確保します。

➤ 駅前広場の整備



南越駅(仮称)周辺の整備状況

➤ パーク&ライド駐車場の整備



えちぜん鉄道 永平寺口駐車場



福井鉄道 水落駅

※8 拠点となる鉄道駅や道の駅から観光地までの、シャトルバスや乗り合いタクシー・レンタル自転車などの交通

4 国土強靱化と持続性 ～強くてしなやかな道づくり～



激甚化・頻発化する自然災害に備え、平時・災害時を問わず人・モノ・情報の流れを確保する道路ネットワークの形成や機能向上を推進します。また、原子力発電所が立地する福井県として、日常的な利用に資するだけでなく、有事の際には広域避難ルートにもなる道路の整備、防災対策など機能強化を進めていきます。

雪に強い道づくりとして、4車線化や道路拡幅、雪崩対策などハード面の整備を進めるとともに、除雪体制の強化や関係機関との情報共有などを図ります。

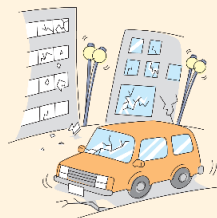
道路施設の老朽化対策については、長寿命化修繕計画に基づき計画的に実施するとともに、事後保全から予防保全に転換することにより、持続可能な道づくりを推進します。

また、急速に進展しているICTを活用し、道路の異状の早期発見など道路管理の高度化・効率化を図ります。

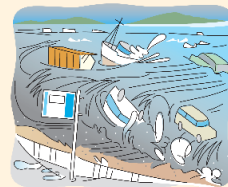
<国の取組み> 国土強靱化にむけ、2013年12月に「国土強靱化基本法」が成立

国土強靱化とは、大規模な自然災害などに備えるため、事前防災や減災、迅速な復旧・復興につながる施策を計画的に実施して、強くてしなやかな国づくりや地域づくりを進める取組のこと。

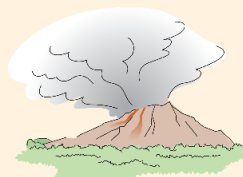
ターゲットにしている起きてはならない最悪の事態



●大都市での建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や住宅密集地における火災による死傷者の発生



●広域にわたる大規模津波等による多数の死者の発生



●大規模な火山噴火・土砂災害（深層崩壊）等による多数の死傷者の発生のみならず、後年度にわたり国土の脆弱性が高まる事態



●異常気象等による広域かつ長期的な市街地等の浸水

- 情報伝達の不備等による避難行動の遅れ等で多数の死傷者の発生
- 被災地での食料・飲料水等、生命に関わる物資供給の長期停止
- 自衛隊、警察、消防、海保等の被災等による救助・救急活動等の絶対的不足
- 首都圏での中央官庁機能の機能不全
- 電力供給停止等による情報通信の麻痺（まひ）・長期停止
- サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下による国際競争力の低下
- 社会経済活動、サプライチェーンの維持に必要なエネルギー供給の停止
- 太平洋ベルト地帯の幹線が分断する等、基幹的陸上海上交通ネットワークの機能停止
- 食料等の安定供給の停滞
- 電力供給ネットワーク（発電所、送配電設備）や石油・LPガスサプライチェーンの機能の停止
- 農地・森林等の荒廃による被害の拡大

〔出典：内閣官房国土強靱化推進室〕

(1) 大雨・大雪等の災害に備えた機能強化

近年頻発する大規模災害時においても、人やモノの輸送を安定的に確保するため高規格幹線道路のミッシングリンクの解消および4車線化、高規格幹線道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による機能強化はもとより、重要物流道路や緊急輸送道路などの防災・減災対策を進めるとともに、複数ルートが確保できる県内道路ネットワークの形成を推進します。

また、日常的には人の交流や物流を担い、原子力災害時には広域避難ルートにもなる道路の整備、防災対策など機能強化を図ります。

冬期においては、交通量の多い主要な幹線道路、インターチェンジや主要な病院へのアクセス道路など最重点除雪路線を中心に、除雪体制を強化し、交通を確保します。

通行規制や雨量情報、冬期における積雪情報や路面状況など道路に関する情報を、行政や警察、地域団体などの関係機関と共有し、一元化して利用者に発信します。

➤ 重要物流道路や緊急輸送道路における防災対策



国道417号冠山峠付近の雪崩対策
(池田町河内)

➤ 「みち情報ネットふくい」による道路情報の発信

The screenshot displays the 'みち情報ネットふくい' (Michi Information Net Fukuoka) website interface. At the top, there are navigation tabs for 'TOP', 'カメラ' (Camera), '通行規制' (Traffic Regulations), '道路情報板' (Road Information Board), '冠水情報' (Flood Information), '積雪情報' (Snow Accumulation Information), and '排雪場所' (Snow Removal Locations). Below these are summary statistics: '全面通行止 4件' (4 cases of full road closure), '片側交互通行 9件' (9 cases of one-way alternating traffic), and '規制予定' (Regulation scheduled). The main content area is divided into several sections: 'カメラ' (Camera) showing a live feed of a road intersection; '通行規制' (Traffic Regulations) with a map and details for National Route 417; '積雪情報' (Snow Accumulation Information) for Inuyama City (Dog Mountain); '道路情報板' (Road Information Board) showing a map with road status indicators; and '冠水情報' (Flood Information) with a map and details for a specific location in Inuyama City. A banner at the bottom of the road information board reads '高齢者の交通死事故激増' (Sharp increase in traffic deaths among the elderly).

出典：福井県HP

(2) 道路施設の予防保全・長寿命化

計画的な定期点検により橋梁やトンネル等の健全度を把握し、損傷度合いに応じて早期補修を行います。

より安全なインフラ設備の維持を目指し、事後保全^{※9} から予防保全への転換を図り、長寿命化を推進します。

➤ 橋梁やトンネル等の定期点検の実施

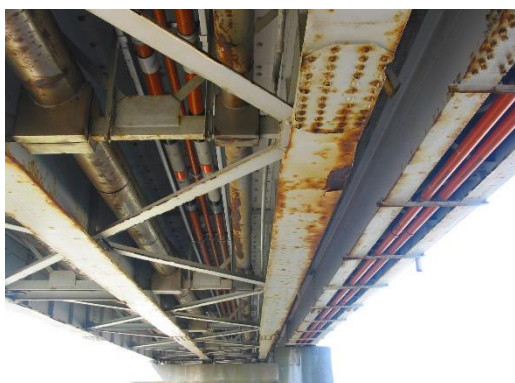


国道 305 号 新保橋 (坂井市三国町)



国道 158 号 小和清水・奈良瀬トンネル
(福井市美山町)

➤ 老朽化する道路施設の予防保全対策 (橋梁塗装塗り替え)



補修前



補修後

国道 305 号 新保橋 (坂井市三国町)

※9 施設の機能や性能に不具合が生じてから修繕等の対策を講じること

(3) ICT を活用した道路管理の高度化・効率化

A I 監視等の新技術を導入し、道路施設管理の高度化・効率化を推進します。冬期除雪時には、GPS搭載の除雪車管理システムにより、効率的な除雪を行い住民の要望に早期に対応します。

また、データ等を活用した渋滞対策を行うなど、ICT を活用し長期的かつ効率的に道路施設の機能確保を推進します。

➤ A I 技術を活用した道路維持の効率化



A I による路面状態判別のイメージ

福井県と日本気象協会、ベンチャー企業は産官で連携し、福井県設置のカメラ画像を使用して凍結や積雪など路面状態をリアルタイムに判別していく実証実験を2020年12月から行っています。A I は画像を▽乾燥▽湿潤▽凍結▽積雪などと判別し、さらに、現場で県土木事務所職員が確かめた状況をA I に学習させ精度を高めていきます。

将来的に、道路の凍結防止剤の散布や除雪作業の素早い判断、効率化が期待されています。

➤ 福井県道路管理情報システム

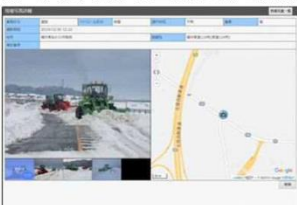
トップページ 通行規制や除雪車位置、カメラなど全ての現況を地図上で確認

カメラ画像 道路377台、河川100台
福井県警、国交省、NEXCOとのデータ連携により道路・河川カメラを集約



現場写真

スマートフォンから登録された現場写真



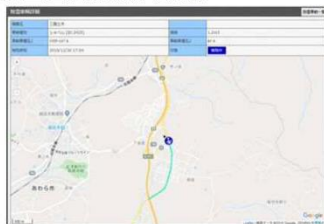
積雪・気温グラフ

国交省、気象庁の気象情報を集約



除雪車輛位置(GPS)

除雪車輛に設置されたGPSにより現在位置と走行軌跡を表示



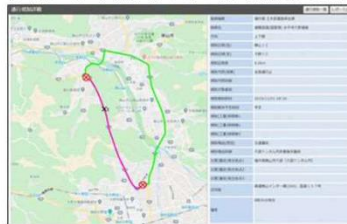
スマートフォンサイト

災害現場やパトロールで、内部システムと同等な閲覧が可能



通行規制情報 全227路線

福井県警、国交省、NEXCOとのデータ連携により県内全ての規制情報を網羅



メール通報

トンネル内で事故等が発生し押しボタンを押した場合や、非常警報設備が故障した場合に管理者へメール通報



福井県道路管理情報システムは、福井県および関係機関（国交省、県警、NEXCO等）の道路状況や除雪状況を集約することで、刻々と変化する雪害状況をリアルタイムに把握し、道路管理者の迅速かつ効率的な除雪作業を支援するとともに、公開サイト「みち情報ネットふくい」によって、県民に向けた道路状況を発信します。

5 魅力ある道路空間の創出 ～居心地のよい道づくり～



道路に求められるニーズの多様化に対応した魅力的な空間を地域住民とともに創り出し、道路空間を身近に感じるよう工夫します。

クルマ中心から人中心へ、安全・快適な歩行空間の確保や人が集まる道づくりを推進します。

(1) 地域のニーズに応じた柔軟な道路空間の創出

歩行者・自転車空間を拡大し、賑わいや安らぎが感じられ、美しさや心地よさが感じられる質の高い道路空間を創出します。

また、ワークショップを開催し、イベントやオープンカフェ等の多目的に利用できる柔軟な道づくりを地域住民と一緒に進めるなど、利用者目線での道路空間の利活用を推進します。

➤ 地域ニーズに応じた道路空間の再配分



車道・歩道スペースの再配分



イベントスペースの利用

国道8号（敦賀市元町交差点～白銀交差点）

➤ 道路の多様な活用



福井マラソン（フェニックス通り）

➤ 道路の住民の活用



七間朝市（大野市）

➤ 地域住民協働による道づくりの事例

県道 磯部島西瓜屋線 みちづくり協議会(ワークショップ)

キャッチフレーズ

語らいのある学舎のまち
♪ 楽しく歩きたくなるみちづくり♪
歩行者と自転車と車が共存し、
安全・安心・快適を実現

基本方針

1. 歩行者が安全に安心して通れる配慮をすること
2. マナーや思いやりのあふれる道にすること
3. 明るく快適で気持ちのよい空間にすること
4. 地域のコミュニケーションの場となること
5. 地域の特色が感じられる空間にすること



意見交換



社会実験



完成断面

～これまでのワークショップの流れ～

- 第1回 「ワークショップに集まろう」
平成18年9月30日
●ワークショップの目的の確認
●現地を歩いて、現道の問題点について、みんなで話し合い、まとめます。
- 第2回 「みちづくりを考えよう」
平成18年10月22日
●現道の問題点の解決方法について、みんなで話し合い、「どんなみちにするのか」
- 第3回 「みちづくりをしてみよう」
平成18年11月11日
●みんなで話し合い、アイデアを出し合って、
- 第4回 「みちづくりをまとめようⅠ」
平成18年12月10日
●これまでの意見やアイデアをまとめて、ワークショップが提案する計画案をひとつにまとめます。
- 第5回 「みちづくりをまとめようⅡ」
平成19年2月10日
●前回に引き続き、これまでの意見やアイデアをまとめて、ワークショップが
- 社会実験
平成19年2月25日～3月8日
- 第6回 「計画をもっと良くしよう」
平成19年4月15日
●ワークショップの成果をまとめ、計画案を確認します。
- 第7回 「みちの個別パートを考えよう」
平成19年6月24日
●舗装、照明、みちの名前を考えます。
- 道路工事
平成20年11月～3月
- 第8回 「出来上がったみちを体験しよう」
平成20年4月19日
●現地を歩いて、完成した道を確認します。

一般県道 磯部島西瓜屋線(坂井市丸岡町)

坂井市立丸岡中学校前の通学路は、幹線道路で交通量が多く周囲に商店街もあることから、生活道路や抜け道など様々に利用されています。道路添いの歩道は幅 1.2mと狭いが現在の道路幅を拡げることは難しく、現況道路の幅員の中で歩道幅を見直す計画を周辺住民の方々と共に検討するため、ワークショップを立上げ、社会実験を行いました。その結果と集まったいろいろな意見を反映して道路空間を再分配し、より安全で身近な道路計画となりました。

(2) 豊かな景観づくりと環境との共生

福井らしい歴史的なまちなみや優れた自然景観など、周辺の風景に合わせたデザイン性のある道路空間を創出します。

地域住民が参加する花植えや清掃などにより、心地よい通行空間（緑道）を創出し、永く持続できる景観・環境づくりを推進します。

また、シェアサイクルや次世代環境対応車等への転換を図り、地球温暖化等の気候変動に対応した、環境と共生できる道づくりを進めます。

➤ 住民参加の道づくり



主要地方道 福井停車場線
(福井市大手3丁目)



国道476号
(大野市日吉町)

➤ 歴史景観と合わせた道路空間整備

➤ 自動運転の実証実験



永平寺町の自動走行ルート



無電柱化整備（一乗谷朝倉氏遺跡周辺）



「ZENdrive」

道づくりの3つの進め方

1 効率的、経済的な事業展開とストック効果^{※10}の最大化

- (1) 選択と集中による事業展開
- (2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制
- (3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

2 県民の参画と協働

- (1) コミュニケーション（情報共有と合意形成）
- (2) 愛着のある身近な道づくり

3 情報化技術の活用

- (1) 通信技術を利用した情報の収集・発信、一元化による共有
- (2) デジタル技術の有効活用

※10 整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果

1 効率的、経済的な事業展開とストック効果の最大化

限られた財源の中で、重要性、必要性などを踏まえながら、新たな道路の整備と老朽化する道路施設の維持管理を適切に行い、効果的な道路マネジメントを進めます。

(1) 選択と集中による事業展開

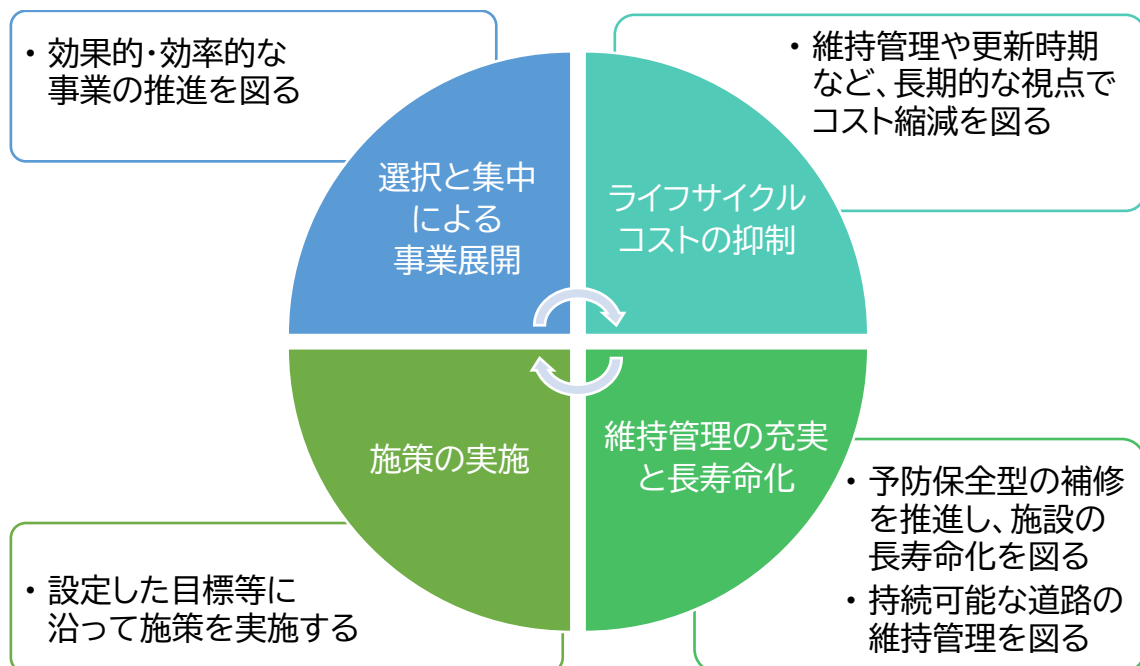
地域の実情を考慮しながら、重要度や必要性を踏まえ、適切な事業評価を行い、効果的・効率的な事業の推進を図ります。

(2) 建設～維持管理～更新を踏まえたライフサイクルコストの抑制

つくる時だけでなく、維持管理や更新を行う時期も含め、長期的な視点でコスト削減を図り、道路としての機能が最大限発揮できるよう道路施設の運用を図ります。

(3) 既存の道路（ストック）の維持管理の充実と長寿命化

老朽化していく道路施設に対して、定期点検の実施や予防保全型の補修を推進するなど、施設の長寿命化を図るとともに、地域住民や民間事業者との合意形成を図りながら、持続可能な道路の維持管理を行います。



2 県民の参画と協働

これからの道づくりは、「つくる」時だけでなく、イベントや憩いの場として「使う」時や、維持管理して「守る」中においても、地域住民や民間事業者等と情報共有や合意形成を図りながら、愛着の持てるよう「育てる」道づくりに向けて、道路管理者だけでなく「オールふくい」による総合的な取組を進めます。

(1) コミュニケーション（情報共有と合意形成）

リーフレットやウェブ等を活用した積極的な情報発信を行うとともに、ワークショップ等による地域との合意形成を図ります。

また、子どもたちへの「道と共に生きる」教育なども取り入れながら、豊かな暮らしを支える道づくりを進めます。

(2) 愛着のある身近な道づくり

地域住民や民間事業者が主体となった花植え活動や環境美化運動等の道守活動や、みどりのスコープひとかき運動等を幅広く展開するとともに、地域が主体となった道路空間を活用したイベントの開催や憩いの場としての利用など、愛着をもって人が集まる賑わいのある道づくりを進めます。

➤ 住民による花植え活動



一般県道 福井停車場勝見線
城東橋（福井市手寄）

➤ みどりのスコープ ひとかき運動



➤ イベントによる道路空間利用



主要地方道 小浜停車場線（小浜市小浜住吉）



3 情報化技術の活用

近年、急速に進展する情報化技術を道づくりに活用し、道路に関する情報の収集・発信、共有化による渋滞対策や交通安全対策、維持管理の高度化・効率化を進めます。

(1) 通信技術を利用した情報の収集・発信、一元化による共有

ICT 等を活用しながら、関係機関と積極的に情報交換し、利用者からの道路に関する異状等の情報を収集、一元化して有益な情報として発信、共有することで、通行の安全性や利便性の向上を図ります。

(2) デジタル技術の有効活用

AIやビッグデータ等の利用により、渋滞や事故の発生により危険のある箇所の的確な把握や画像解析による道路異状箇所の早期発見など、道づくりや維持管理の高度化・効率化を図ります。

また、自動運転車など多様なモビリティの実用化がスムーズにできるよう基盤づくりを進めます。



参 考 资 料

【参考資料1】

福井の道づくり懇話会

「道路の将来ビジョン」の改定にあたり、県内の有識者や各界・各層の代表からなる「福井の道づくり懇話会」を設立し、意見を伺いながら本ビジョンを策定しました。

委員名簿

	氏名	役職
座長	南 保 勝	福井県立大学地域経済研究所 所長
座長代理	川 本 義 海	福井大学学術研究院工学系部門 教授
	清 水 則 明	(一社)福井県自動車会議所 会長
	杉 本 博 文	池田町長、福井県道路協会 会長
	高 見 和 宏	(一社)福井県商工会議所連合会 専務理事
	長 谷 川 美 香	福井大学学術研究院医学系部門 教授
	原 田 陽 子	福井大学学術研究院工学系部門 准教授
	水 上 聡 子	アルマス・バイオコスモス研究所 代表
	三 寺 潤	福井工業大学環境情報学部 教授
	山 田 義 彦	(公社)福井県観光連盟 会長

開催経過

第1回	令和2年 8月 6日	(1)福井の「道路の将来ビジョン」の改定について (2)福井の道路をとりまく状況について
第2回	令和2年10月 7日	(1)第1回懇話会の意見と県民アンケートの結果について (2)道路の将来ビジョンの論点について
第3回	令和2年11月18日	(1)ビジョン骨子(案)について
第4回	令和3年 2月 3日	(1)「道路の将来ビジョン」(案)について



福井の道づくり懇話会

「福井の道づくり懇話会」における主な意見

	主な意見	基本方針
道路ネットワークの重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部縦貫自動車道や国道 8 号など骨格となる道路の整備 ・ ミッシングリンクの解消 ・ 防災や観光振興のため横に繋ぐ道づくり ・ 駅から幹線道路へのアクセス向上 ・ 産業道路と生活道路の区分け ・ 小さい産業（暮らしに密着した産業）への配慮 ・ 渋滞解消や、道路の走りやすさの向上 （ボトルネックの解消や右折レーンの整備） ・ 市町や県、国の領域を超えての広範囲な連携強化 	1 広域交流の拡大 2 産業・観光の活性化
多様性のある道路空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安心して歩ける道路 ・ 散歩や、自転車での移動が楽しめる空間 （スローモビリティ、健康づくりの視点） ・ 美しさや心地よさ（遠まわりしてでも通りたくなる道路） ・ 景観づくり（デザイン性を持ったシンボルとなる道路） ・ 多目的利用ができるよう柔軟性のある道路整備 ・ 水辺空間、公共空間、沿道とのつながりを持たせる （地域にあったみちづくり） ・ まちづくりと一体となって、賑わいを創出 ・ 公共交通機関と連携した道路整備 	3 幸福度日本一の生活基盤 5 魅力ある道路空間の創出
道路保全の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害に強い道路（救援・支援の確保） ・ 道路構造物の定期的な点検実施 ・ 予防保全型の老朽化対策 ・ 新しい道路の整備だけでなく、今ある道路を維持 ・ 原子力発電所立地地域としての特色ある道路整備 ・ デジタル技術活用による効率的な管理 	4 県土強靱化と持続性
県民とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民と連携した道づくり （道路に愛着を持てる取組を行う） ・ 道路の重要性を県民にわかりやすく説明 （参画意識、維持管理意識を育てるために） ・ 地域の人に関わることでできる仕組み・仕掛けが必要 （地域と一緒に作りあげていく） ・ 道路予算が様々なことに使われていることを県民に P R （受益者もコスト意識） ・ 子供たちも参加可能な「道の教育」を行う （道路を身近に感じてもらえるよう工夫） 	
ビジョンの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョンは、長期的な視点を持たせる ・ 多様化する道路の使い方を考える ・ 敦賀港もあり、日本の中心となる強い地位を持つ可能性 ・ 国内での福井県の位置付けが大きく変わる （中部縦貫自動車道の開通によりつながりが深まる） ・ 情報化を道づくりに活かす ・ S D G s につなげて政策転換 	

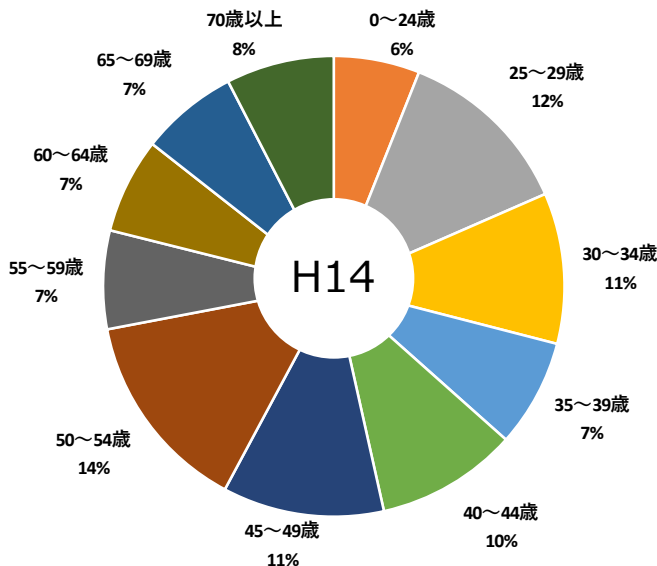
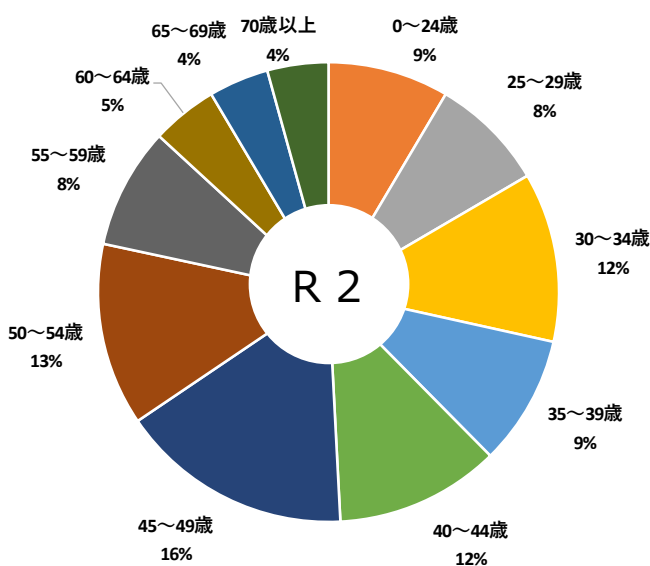
「福井県の道路についてのアンケート」 結 果

アンケート実施概要

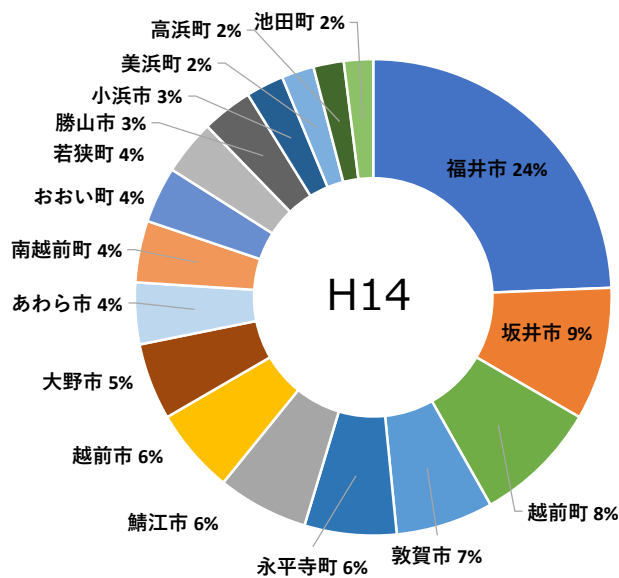
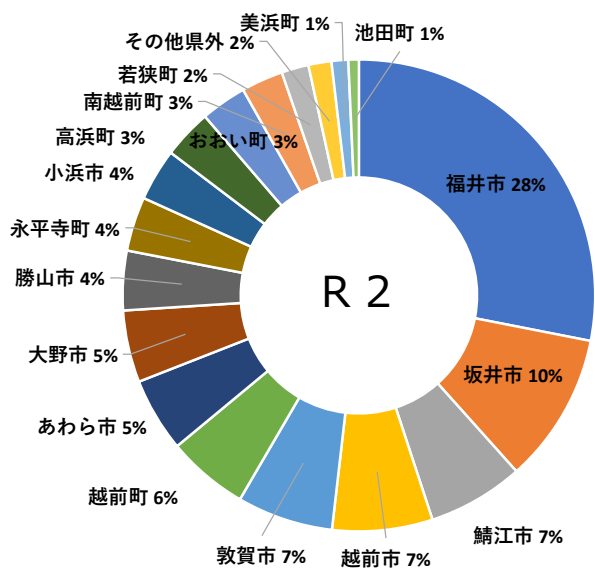
1.	調査目的	道路に関する県民の意識を把握し、今後の施策の参考とする
2.	調査項目	<ul style="list-style-type: none">・道路に関する意識について・今後の道路整備について
3.	調査時期	令和2年7月1日～31日
4.	調査方法	<ul style="list-style-type: none">・市町役場(支所)、土木事務所、道の駅にてアンケート用紙の配布(3,000枚)、回収・福井県道路建設課HP上インターネット回答
5.	回収結果	有効回答数・アンケート用紙：919人 ・インターネット回答：480人 合計：1,399人
6.	その他	<ul style="list-style-type: none">・道路に関する世論調査(内閣府H28.7)に準拠・現行のビジョン(平成16年1月)策定時にも同様なアンケートを実施(H14.3) ※1,363人回答

アンケート質問および回答 問1

年齢構成比



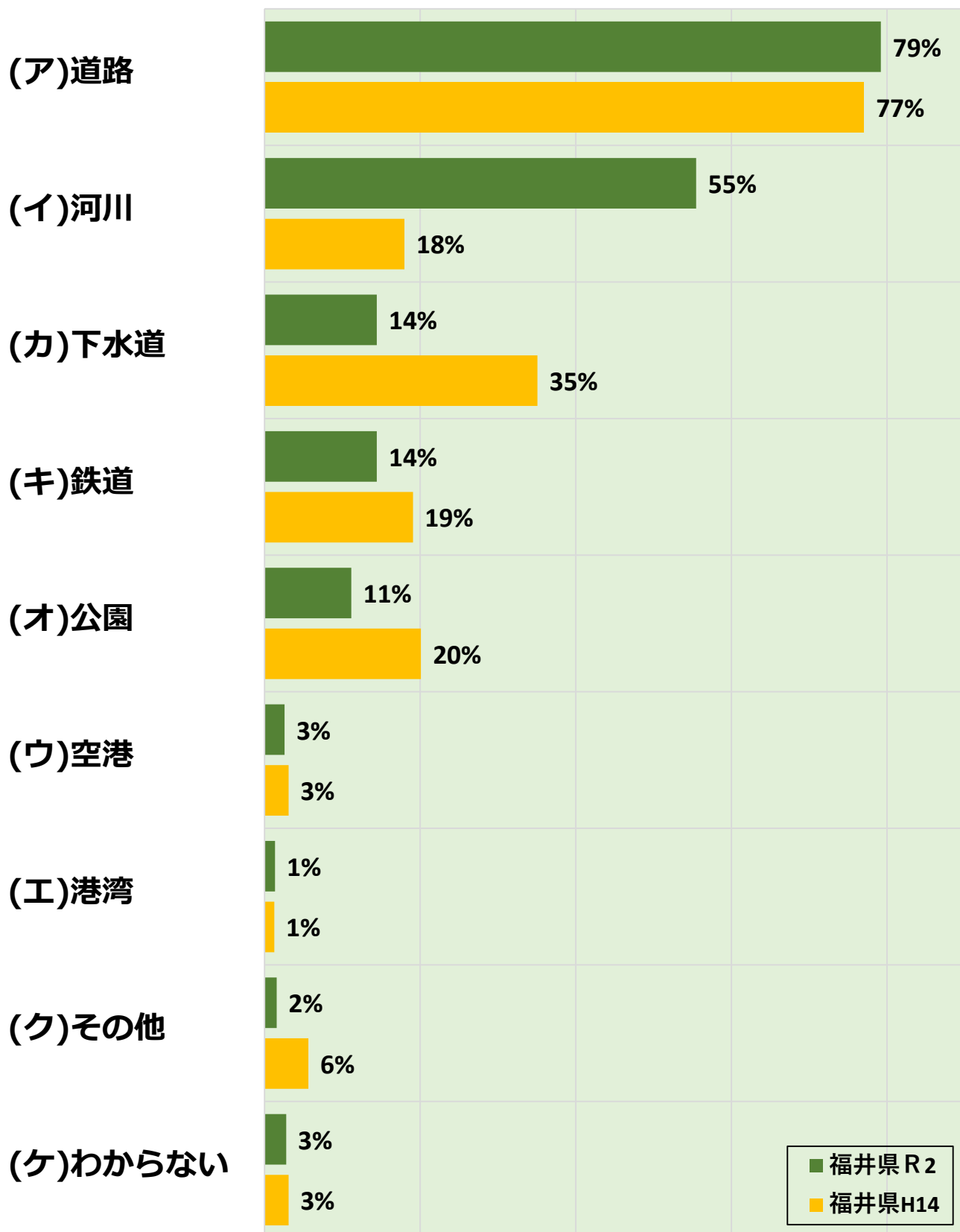
市町別構成比



問2 優先すべき社会基盤

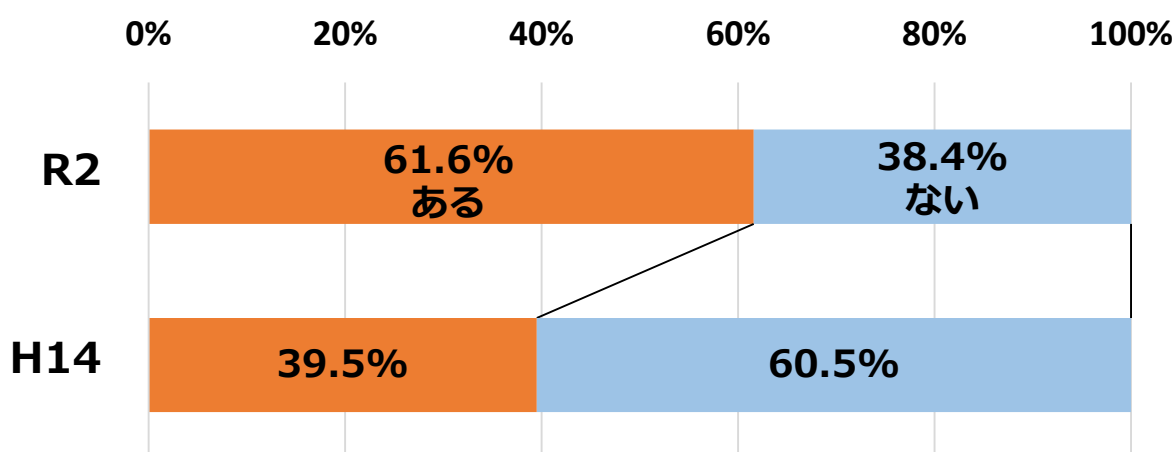
(複数回答)

0% 20% 40% 60% 80%

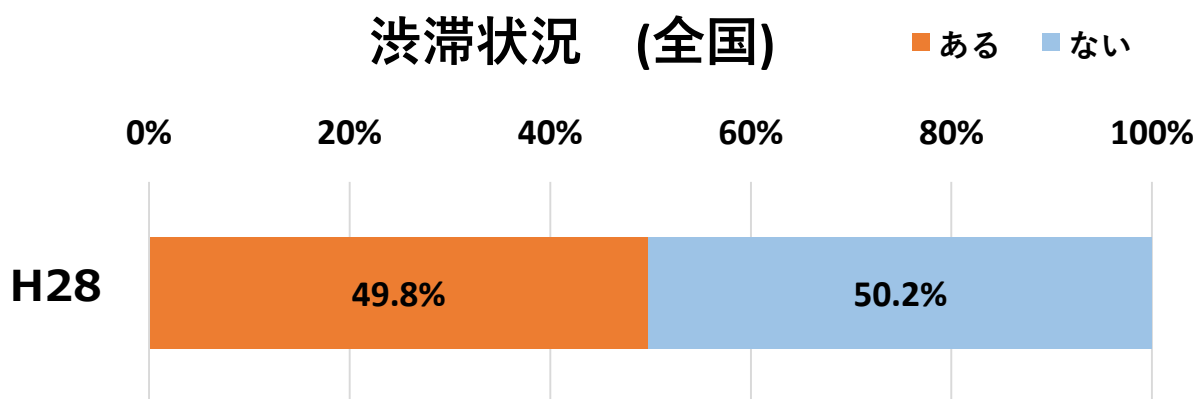


問3 交通渋滞

渋滞状況 (福井県)

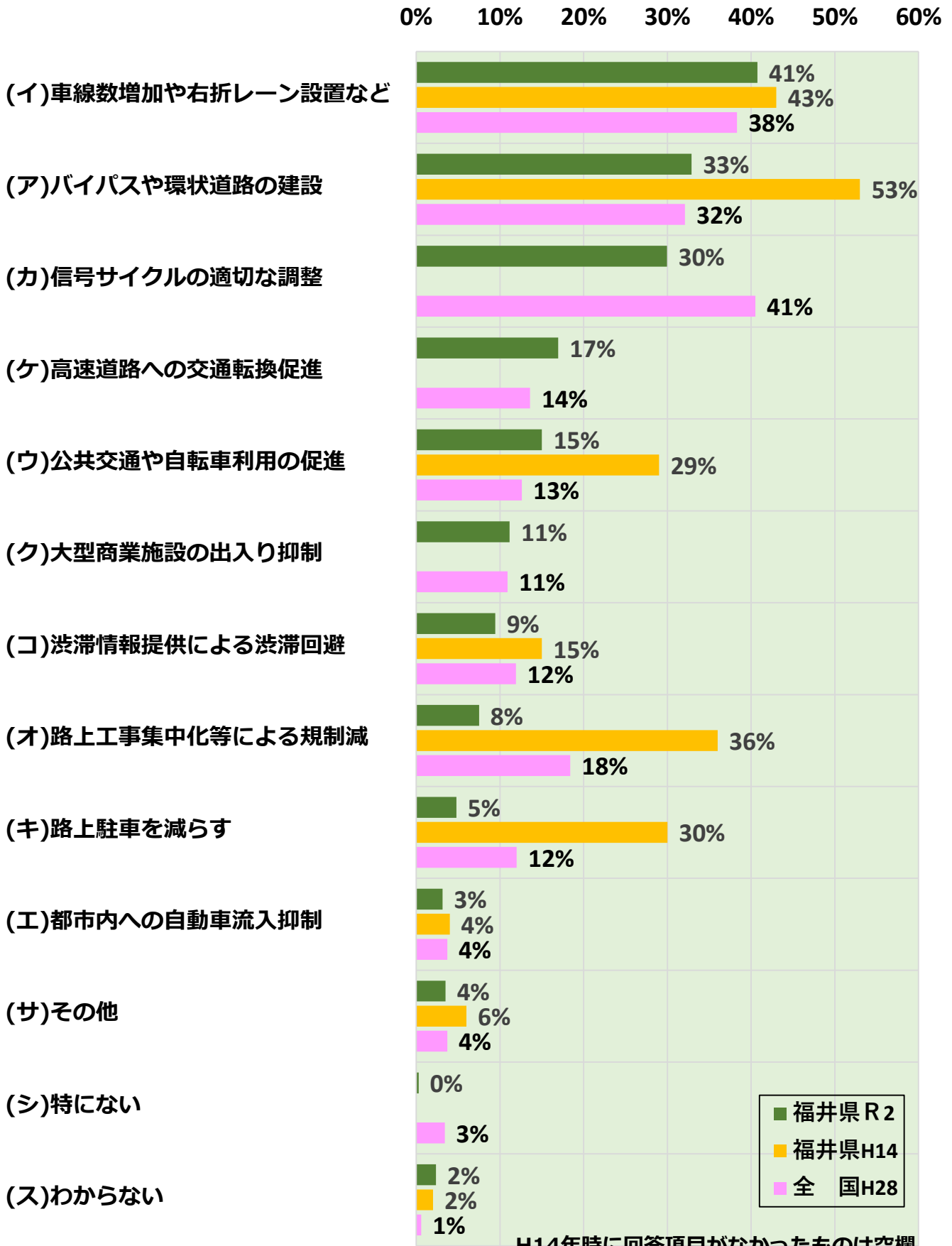


渋滞状況 (全国)



問3-1 交通渋滞解決のための道路施策

(複数回答)

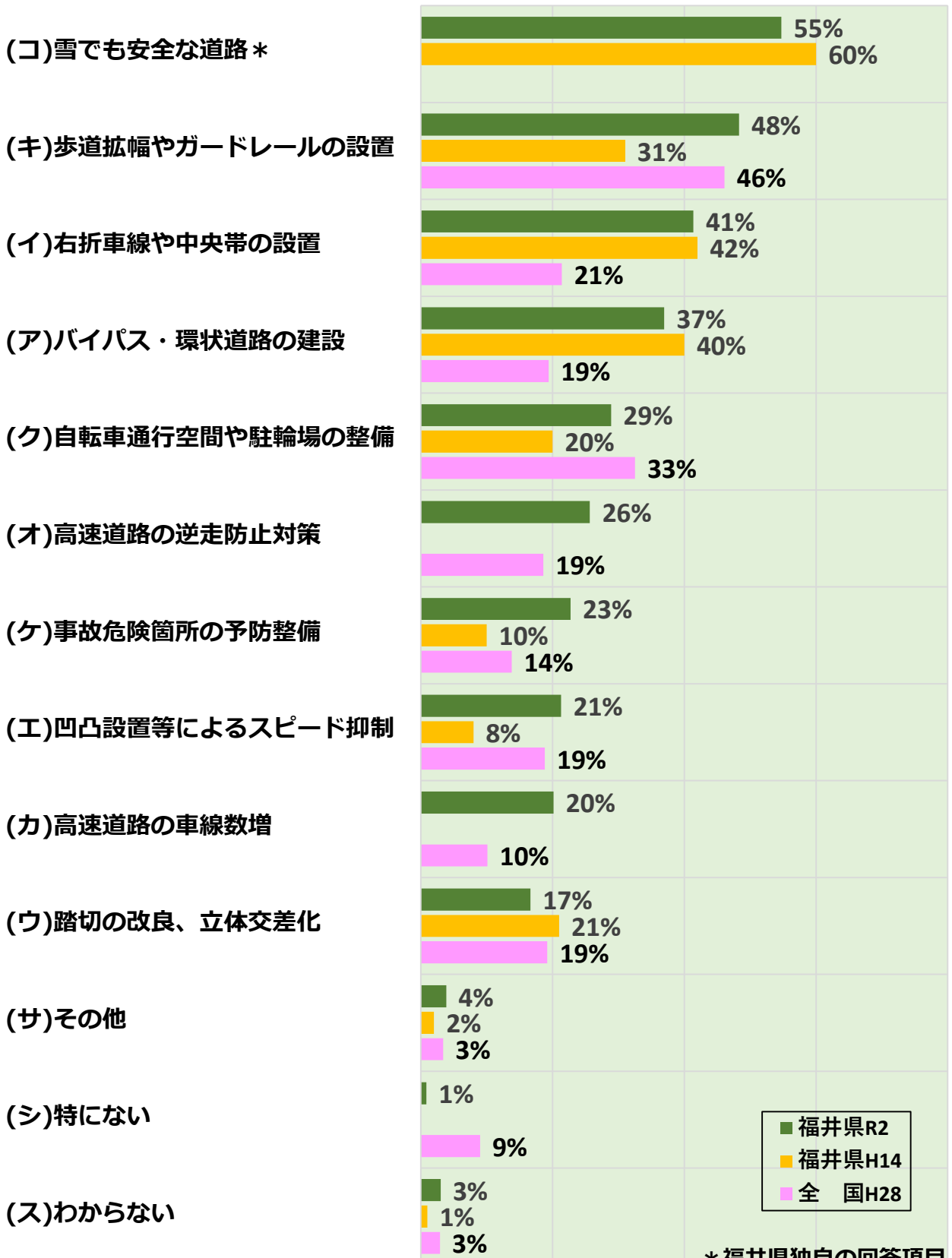


H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問4 道路の安全性向上のための対策

(複数回答)

0% 20% 40% 60% 80%

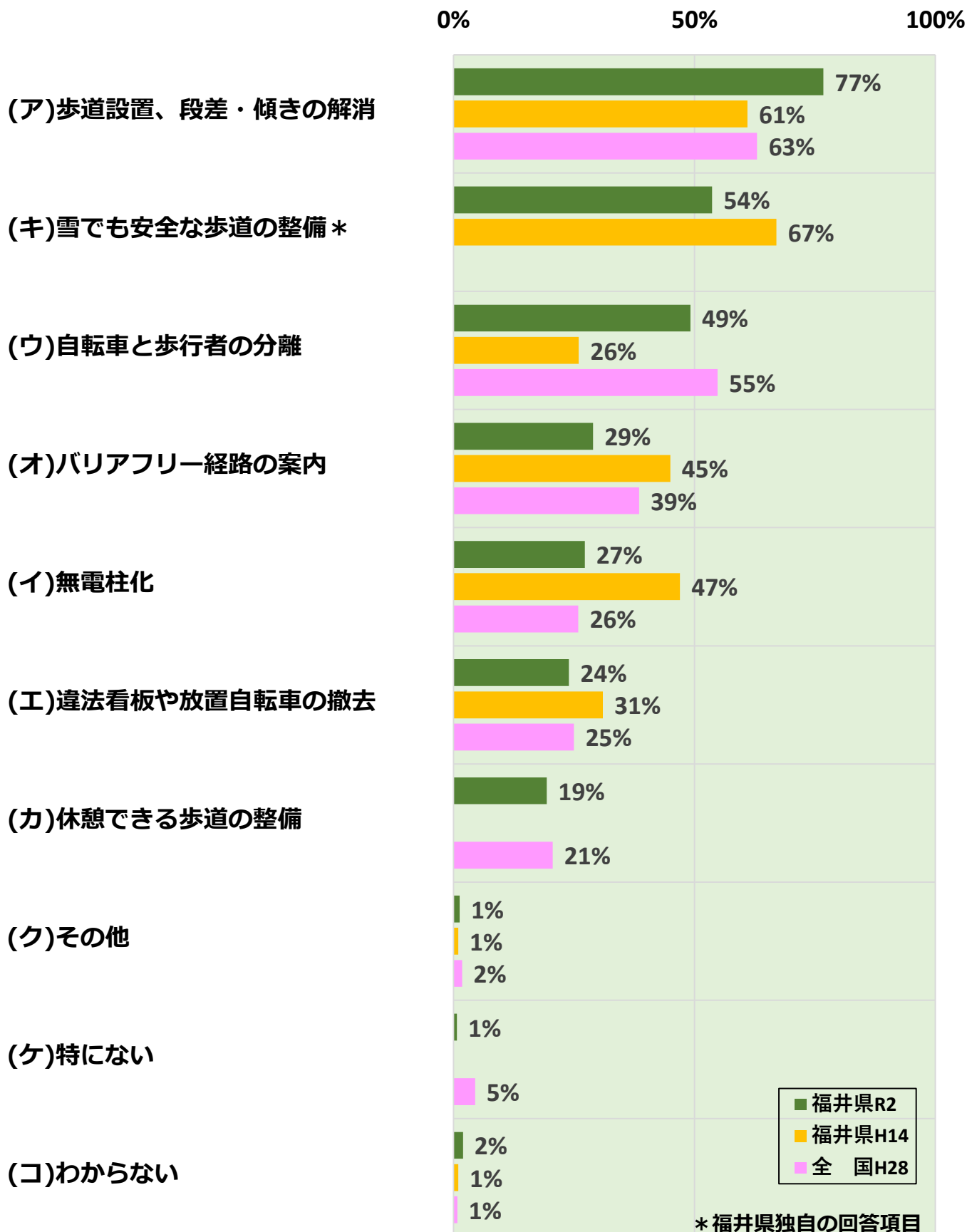


* 福井県独自の回答項目

H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問5 歩行者の立場から望む道路整備

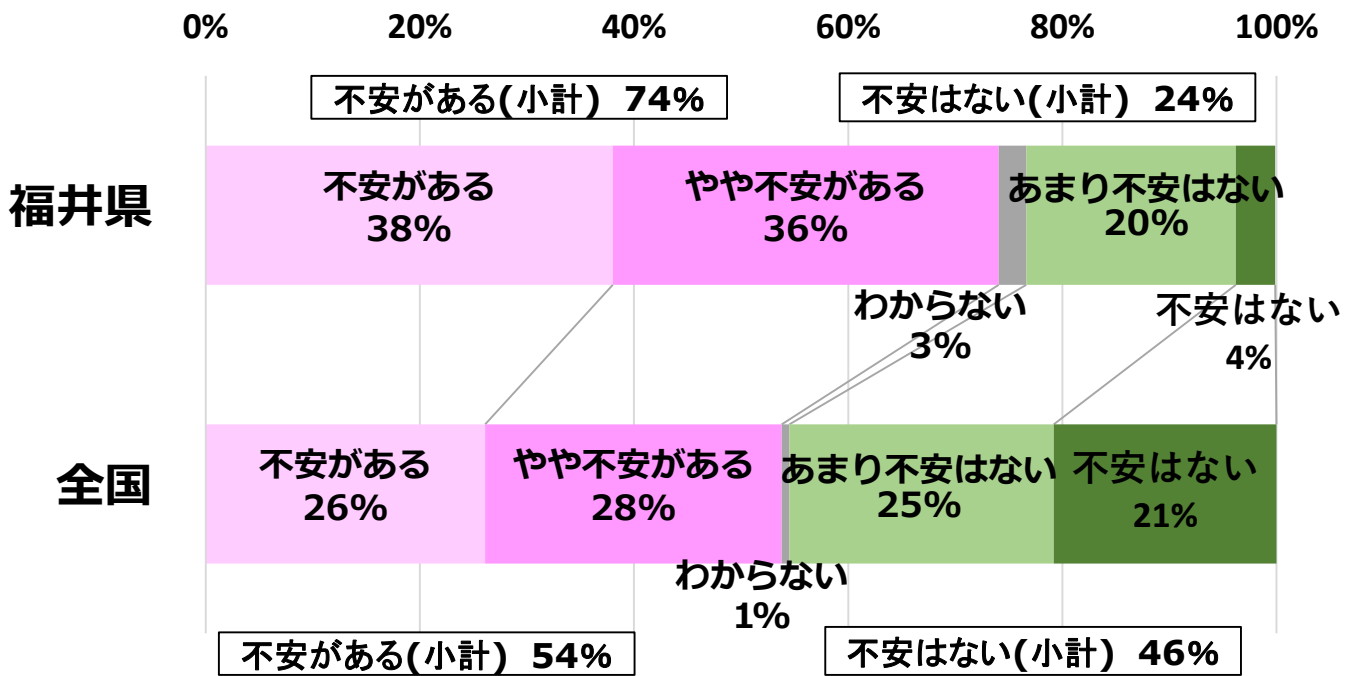
(複数回答)



* 福井県独自の回答項目
H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問6 災害発生時の道路の安全性に対する意識

- 不安がある
- やや不安がある
- わからない
- 不安はない
- あまり不安はない

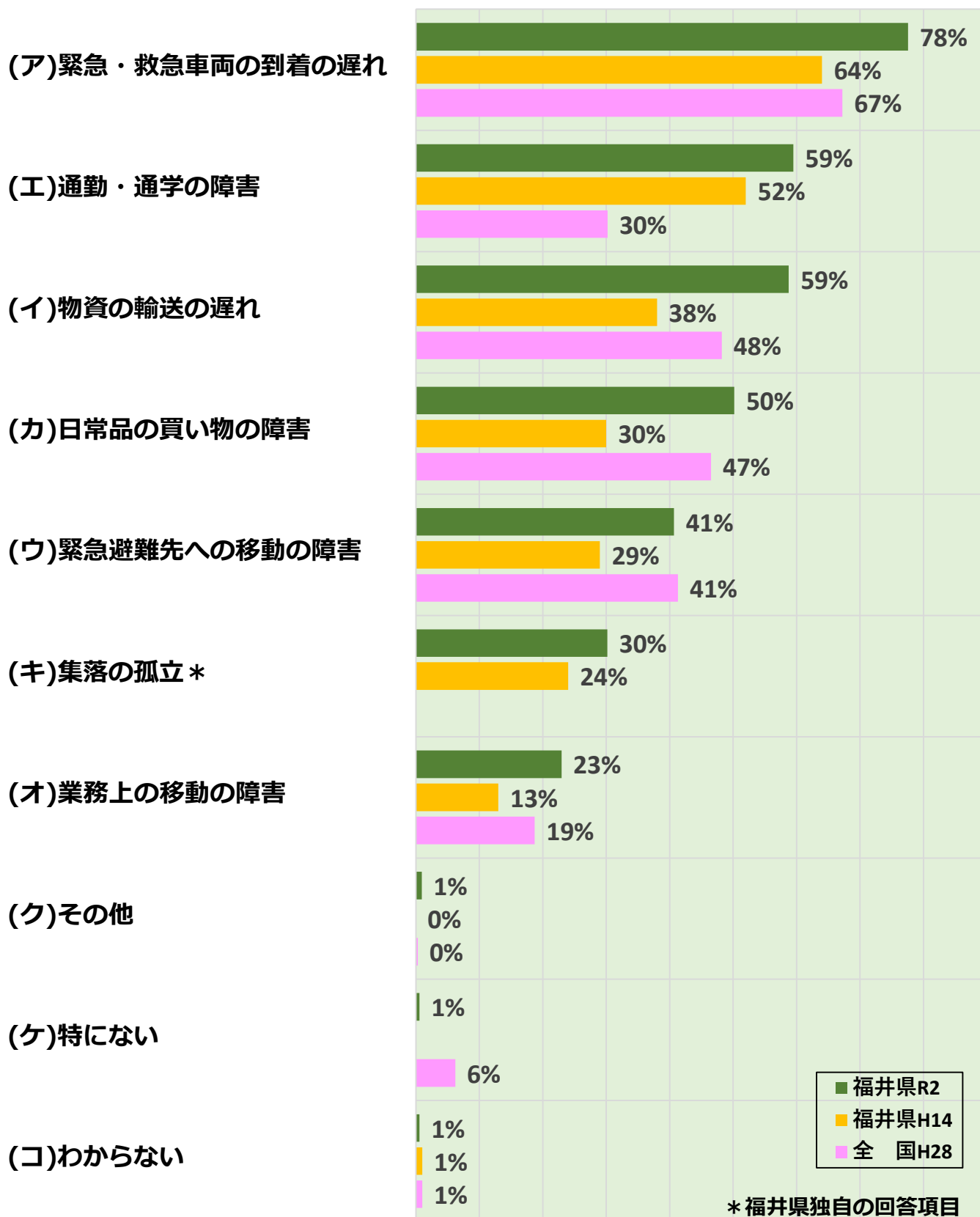


※H14年時は設問なし

問7 災害発生時の通行止めによる不便を感じる内容

(複数回答)

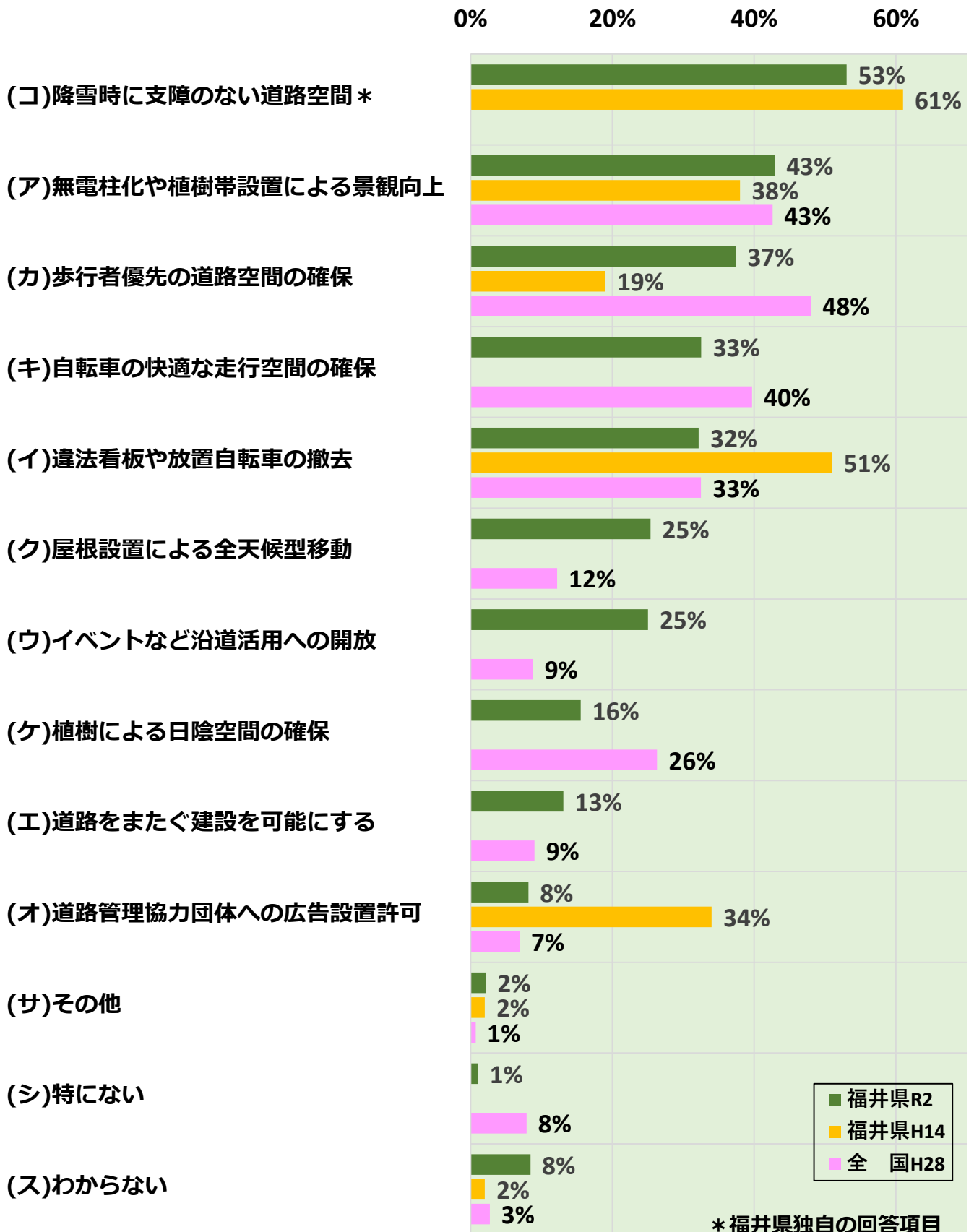
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90%



* 福井県独自の回答項目
H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問 8 道路空間の有効かつ快適な活用施策

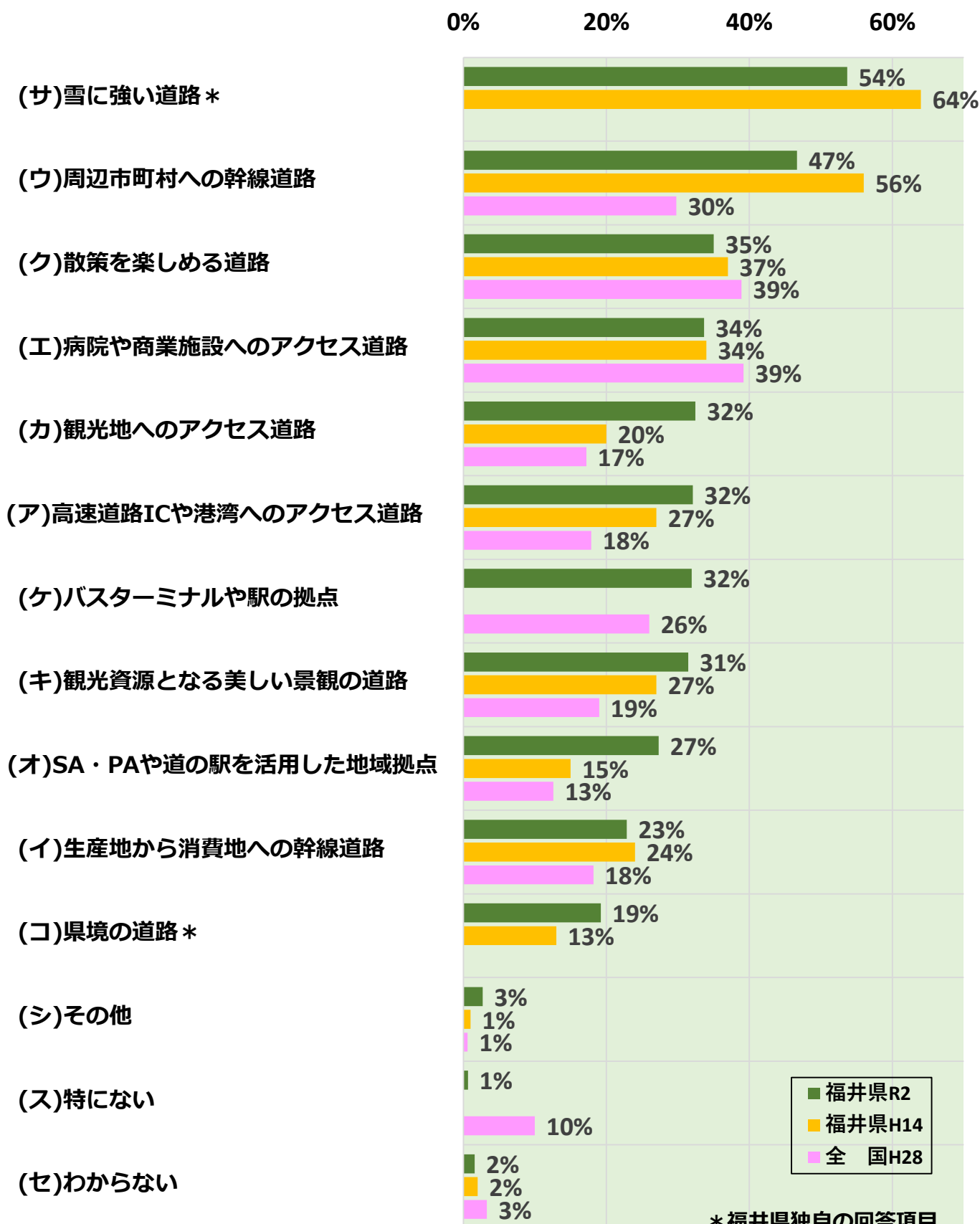
(複数回答)



* 福井県独自の回答項目
H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問9 活力ある地域づくりのための道路施策

(複数回答)

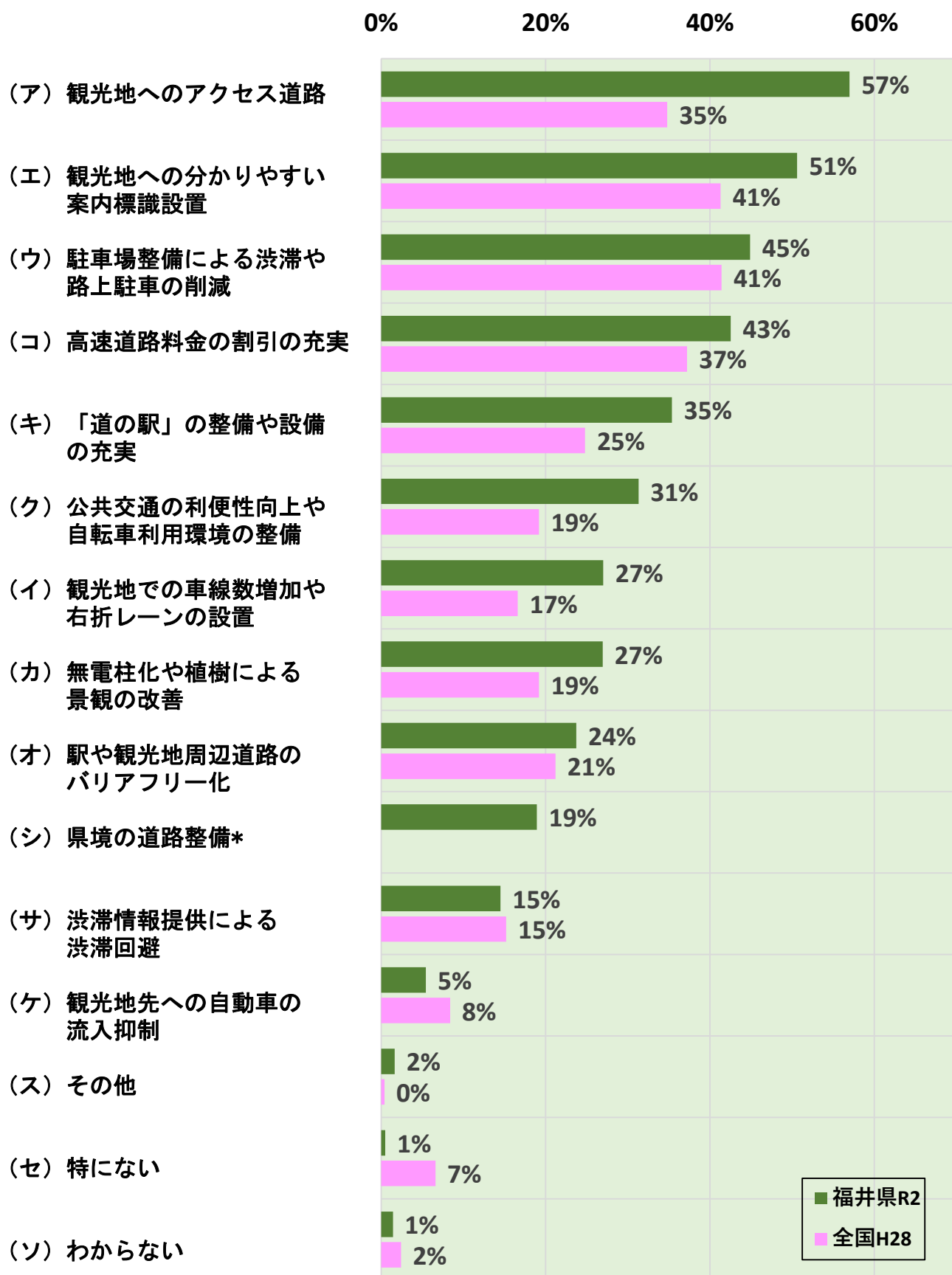


* 福井県独自の回答項目

H14年時に回答項目がなかったものは空欄

問10 観光振興のための道路施策

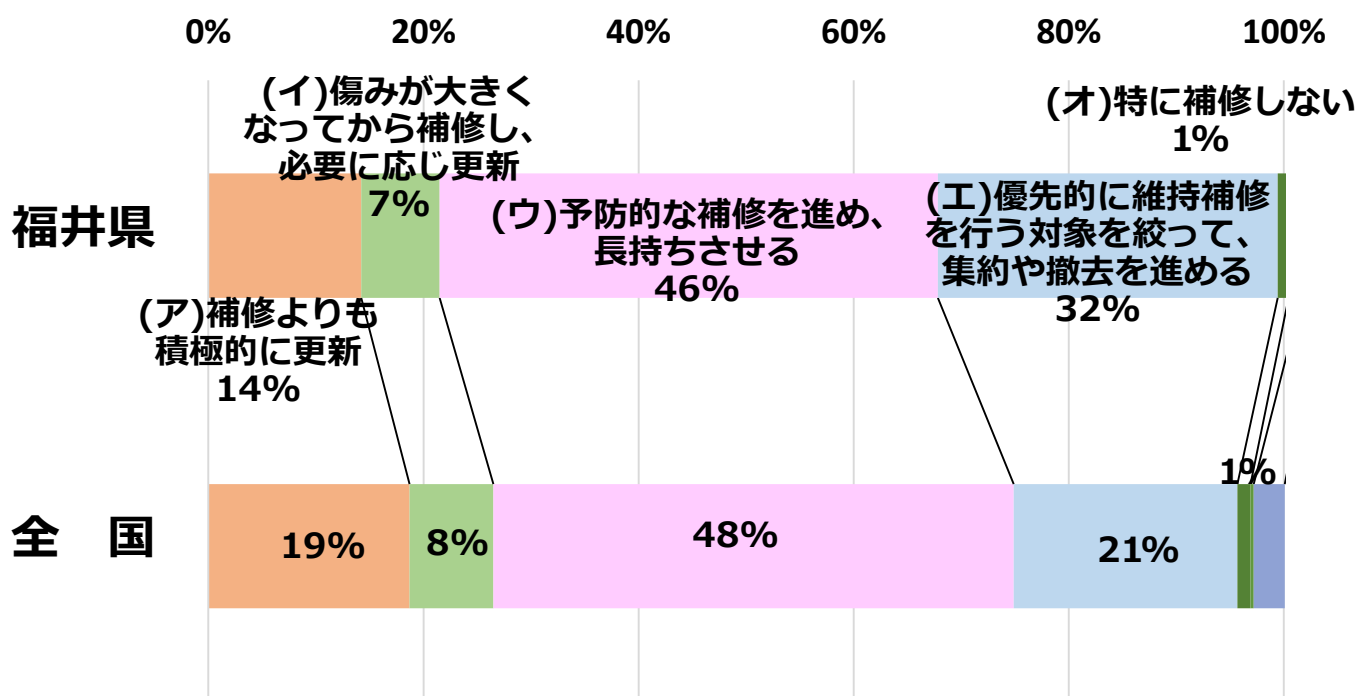
(複数回答)



※H14年時は設問なし

問11 道路構造物の維持管理、更新の考え方

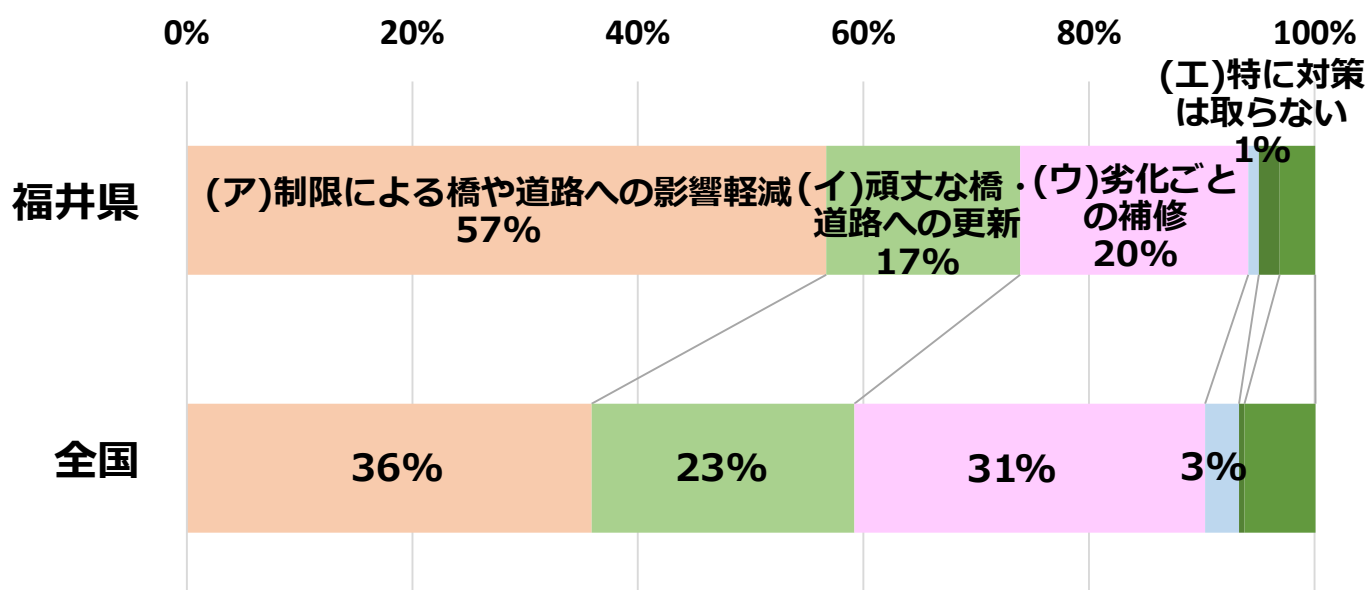
- (ア)補修よりも積極的に更新
- (イ)傷みが大きくなってから補修し、必要に応じ更新
- (ウ)予防的な補修を進め、長持ちさせる
- (エ)優先的に維持補修を行う対象を絞って、集約や撤去を進める
- (オ)特に補修しない



※H14年時は設問なし

問12 車両の大型化に伴う橋・道路の劣化への対応

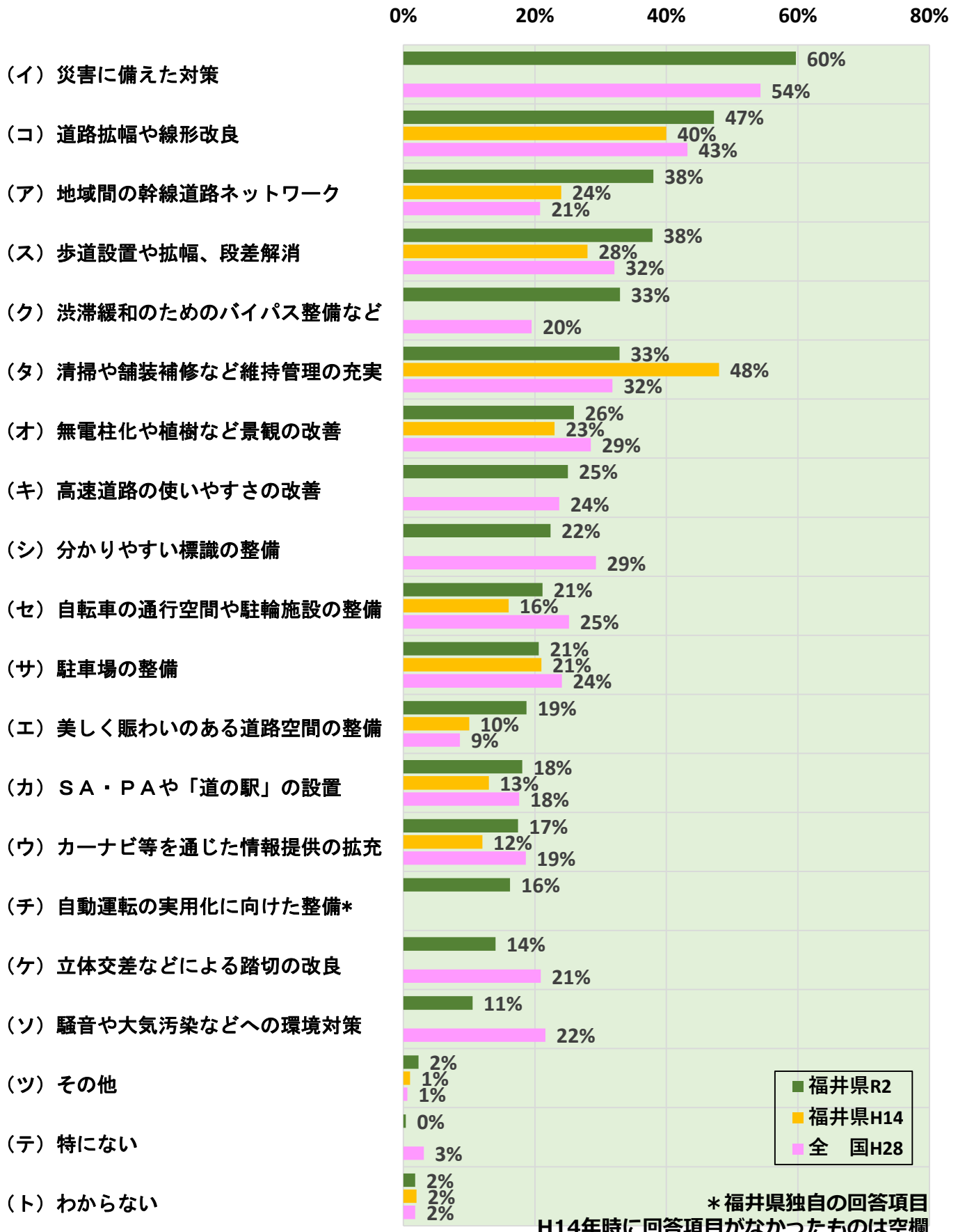
- (ア)制限による橋や道路への影響軽減
- (イ)頑丈な橋・道路への更新
- (ウ)劣化ごとの補修
- (エ)特に対策は取らない
- (オ)その他



※H14年時は設問なし

問13 今後、力を入れてほしい道路整備

(複数回答)



* 福井県独自の回答項目
H14年時に回答項目がなかったものは空欄





あらかじめ、
幸せだったらいいな。



お問い合わせ先

福井県 土木部 道路建設課
〒910-8580 福井市大手3-17-1
TEL 0776-20-0474 FAX 0776-20-0658
詳しい内容はホームページでもご覧いただけます。
<http://info.pref.fukui.jp/douroken/index.html>